

小山工業高等専門学校

空手道部二十年誌

小山工業高等専門学校空手道部

陵空塾（同O.B.会）

拳

道場訓

- 一、人格完成に努むること
- 一、誠の道を守ること
- 一、努力の精神を養うこと
- 一、礼儀を重んずること
- 一、血氣の勇を戒むること

卷頭言

小山工業高等専門学校空手道部OB会（陵空塾）会長 小磯 覚司

小山高専空手道部が創立二十周年を迎えることができました。

これまで厳しくも、そして温かい御指導をいただいた小山高専、日本空手協会を始めとする各先生方にここに厚く感謝致します。

二十年という長期にわたり当小山高専空手道部がここまで継続、発展してこれたのは何故なのか、また小山高専空手道部のどこに魅力があるのかと考えてみると、空手自体の魅力もさることながら、これを体験した者にしか判らない学生生活を通しての空手道部活動の素晴らしさがあるのだと思います。

私自身の学生当時を振り返りますと、何といっても厳しい日々の練習、そして恐怖の会津田島の合宿生活が第一にイメージされるのです。練習嫌いの私は合宿の日が近づくにつれて気分が滅入り、せっかくの夏休みを憂鬱な気分で過ごすことになります。そしてなんとか合宿をさぼれないかと思いながらも、適當な言い訳もないまま結局合宿の日は必ずやって来るのです。

合宿の悲惨さを列举してみますれば、下級生にとっては理不尽とも思える能力の限界に近い練習内容でした。肩車をしての基本練習で全身は筋肉痛に、膝は関節痛に襲われます。あまりの疲労のために食欲はなくなり、小便是真黄色に、そして足の裏の皮は何度もむけて満足に歩くことさえもできなくなります。そして毎日の巻き藁突きのために拳の肉が削られてゆき、傷口から何やら白いものが見えてくる。一体何故このような練習をしなくてはいけないのかという怒りにも似た疑問を抱きながら、合宿が早く終わることを願う日々が続くのです。

しかし、長い合宿が終わる日もまた必ずやって来ます。合宿が終わったときの爽快感、心地よい一服は何ものにも換えがたいものがあります。そしてなによりも大きいのは限界に近い練習に耐え抜いたという自分自身に対する自身でしょう。そして先輩、後輩、同期が共にこの極限状態の中での十日間の時を過ごすことによって、理屈抜きにお互いの気持ちが判って来るのであります。このような関係は普通の生活をしていては持てないものではないでしょうか。

そして当時は鬼のように思えた岩田先生を始めとする指導者の方々が、後になって思えばとことんまで指導してくださるその偉大さがよく判って来るのでです。

OBも今では大人数になり、当空手道部は様々な人材を世に輩出しています。卒業後も空手に関わっているものはごくわずかであるとは思いますが、学生時代に得た自信と経験が今でも役だっているのは間違いないでしょう。私自身空手を続けてきて本当に良かったと思うのです。後輩達にもぜひこれからも空手を続けてもらって、その経験を自分自身の糧としてもらい、そして小山高専空手道部を盛り上げて新しい歴史を作っていてもらいたいと思います。

目 次

卷頭言	陵空塾会長 小磯覚司
祝辞	小山高専校長 山口淳三…… 1
祝辞	日本空手協会栃木県本部長 米良順一…… 2
継続だけが力なり	小山短大空手道部顧問 岩田純明…… 3
創立二十周年によせて	小山短大空手道部長 駒場 進…… 4
顧問冥利	小山高専空手道部顧問 奥山 優…… 5
空手道部活動記録	…… 7
O.B.からのメッセージ	…… 27
部員からの一言	…… 45
合宿の思い出	…… 53
工陵祭の思い出	…… 58
大会の思い出	…… 60
在りし日の思い出	…… 61
歴代幹部表	…… 65
陵空塾・部員住所録	…… 66
編集後記	…… 68

祝辞

国立小山工業高等専門学校長 山口 淳三

本校の空手道部が創立二十周年を迎えたことを関係者の皆さんと共に心から喜び、今後の益々の発展を祈りたいと思います。

この機会に、敢えて門外漢である私の空手道に対する所感を述べて祝辞とすることを許していただきたい。

日本において、空手道は柔道や剣道と違って体育の正課の授業に取り入れられているところはあまりないようだが、これは、空手道の成熟普及が立ち遅れたという歴史的理由と空手に対する理解不足に由来しているのではないかと思う。剣道は古来、木刀を使用し主に「形」を教えていたのが、江戸時代に防具と竹刀を使用するようになり大いに普及したと聞いている。一方、柔道は明治時代に嘉納治五郎が柔術を改良し試合ルールを統一することによって盛んになった。空手道も防具の使用や世界に受け入れられる普遍的なルールの確立、空手道諸派の統一によって体育の教科としても普及するのではないだろうか。

現在、空手に対する高い評価と深い理解はむしろヨーロッパやアメリカでなされていると感じる。例えば、現在長野県で自然保護と日本の伝統的文化保護で活躍している作家のC. W. ニコル氏は、はるばるイギリスから空手を習いにやってきて日本に定住するようになったと承知しているが、これと同様の話を数多く聞いている。

空手が外国で深く理解されると感じたもう一つの理由は、あるアメリカ映画を見たことによる。

物語の場所はアメリカ。空手で強くなりたいと思っている少年が沖縄出身の日系老人に弟子入りするが、床拭き、ペンキ塗り、壁塗り、自動車洗車などの面白くない仕事ばかりを言い付けられ、少しも空手を教えてもらえない。少年はしごれを切らして一度は老人の元を去る。しかし、最後にはこれらの日常の仕事が空手の修行そのものであり自分自身がいつの間にか強くなっていることに気付く。老人は常に礼儀を重んじ、温厚で決して人を傷つけない。身の危険に晒されても決して慌てず対応する。少年はこの老人を尊敬するようになる。誰しも強くなりたい、敵対する相手を打ち負かしたいという願望があるものだが、相手を打ち負かすことが空手の目的ではないと少年は悟る。ラストシーンは少年が空手道大会で優勝し皆から祝福される。私はこの様な日本的精神を理解した映画が日本ではなく外国で製作されたことに驚く。

日常の生活の中に空手があり、空手の中に日常の生活があるという理解は、鎌倉時代に南宋に留学して帰国し、日本の禅宗を広めた道元の考えを想起させる。道元は朝起きてから、洗顔、食事を始めとして日常生活の作法について一挙手一投足まで厳しく指導した。日常の生活が即修行であり、修行は即日常生活の中にあると言う考え方を持っていたと私は理解している。

空手が世界的に理解が深まり評価が高くなっていることから分かるように、非常に豊かで優れた人間開発的要素を備えているものがあるので、近い将来コンセンサスを得て、広く教育界で正規の教科として採用され多くの青少年が空手道に親しむことを期待したい。

祝辞

社団法人日本空手協会栃木県本部長 米良 順一

小山高専空手道部創立20周年おめでとう。

高専空手道部の歴史は日本空手協会栃木県本部の歴史でもあります。“継続は力なり”といいますが、岩田先生の指導のもとに始められた、小山高専空手道部はこの20年間に技術的にはもちろん、人間的にもすばらしい選手を育てました。

20年前の結成当時をふり返れば、高根沢のコミュニティーセンター、そして福島県会津田島での自炊をしながらの合宿、指導者も学生も初めての経験で戸惑いながらも一生懸命でした。

一日六、七時間のきびしい練習で肘、膝の関節はギシギシと鳴き、太腿はぱんぱんにはれて、階段の手摺なしには昇降出来ない。足底は、マメがつぶれては破れをくり返しヨードチンキが頭の芯までしみる。合宿一日目からこれからの一週間の練習回数を消し始める。ただ苦しいだけの一週間の練習が終わる。

合宿最後の夜の納会には学生諸君の顔は一変している。それはがんばった後の爽快感、解放感、そして自信にあふれた顔である。この納会での演芸会ではそれぞれの時代に数多くの迷人、芸人、スターを生みました。彼等OB諸君は社会人として組織の中堅として、その経験を生かして活躍されていることでしょう。

今や日本空手協会県本部は栃木県空手界の一番大きな組織となり、小山高専空手道部は空手界においても名門校となった。

これからもすばらしい先輩諸君の後をひきついで奥山先生を中心にますますの発展を期待します。

“継続だけが力なり”

小山職業能力開発短期大学校空手道部師範（元小山高専空手道部師範） 岩田 純明
押忍

小山工業高等専門学校空手道部創設20周年、本当におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

いつも何か機会があると “継続だけが力なり！” と書くことにしているが、それは空手道を通した自分自身の人生観そのものである。他に何も自信の持てるものがない自分にとって、たいていしてうまくはない空手道ではあるが、他人よりも少し長く続ける機会を与えられたことで、随分と飛躍することができたと少しだけ自負している。でも、自分では少しだけ他人よりも長くという期間がまさに小山高専空手道部の歴史を作った期間と同じである。この期間は、人それぞれ長くもあり短くもあるが、この期間に小山高専空手道部をしっかりと支えてくれた奥山先生をはじめ、指導教官の皆様と陰ながら応援してくれた方々、そしてOB諸氏に敬意と感謝を申し上げたい。“継続だけが力なり！” この事を実行して頂いたのは正にその貴方だからである。

この20年間を振り返ってみると、実際随分と色々な事があった。1973年に小山高専に赴任して空手愛好会を創設、1974年には空手道部に昇格、同年6月には(社)日本空手協会主催 全国空手道選手権大会・大学の部に初参加と華々しい好スタートを切る事が出来た。1980年に香川職業訓練短期大学校へ転勤するまでの間にも、前回の10年史に記載される様なすばらしい記念樹を打ち立て最高の7年間であった。その間に体で覚えた教育理念と方法は今も培われ続けている。

その事が忘れられず、当然香川でもすぐに空手道部を創設、そしてまた縁あって1988年小山職業訓練短期大学校へ転勤、またまた空手道部を創設し現在に至っているが、その間小山高専空手道部とは、全く姉妹校のクラブの様に付き合い、又指導も出来る事は、様々な点ですばらしい事だと思っている。全く母体の異なる学校の学生がクラブを通じて親交を深め苦楽を共にし、将来に渡って付き合えることに、この狭い日本にありながらも人ととの出会いの狭さを感じさせる事がある中で、すばらしい事だと信じている。

そして小山高専空手道部の歴史を語る時に絶対に外せないのは、福島県南会津郡田島町滝の原 神奈川県野外研究施設で毎年行われる夏季合宿である。一時空白の時期があったものの、1991年再び山籠りの様な合宿の再開をする事ができた。さらに昨年は、田島町から「長年に渡り施設使用状況が良い」という事から小山高専空手道部へ表彰状が贈られた。これも、傷み激しい体育館の床の雑巾掛けやポットン便所（今は残念ながら水洗便所）の掃除など、他人が少しだけ嫌がる事を毎日毎日、毎年毎年継続する事だけで認められた結果であろうと思っている。そして、陰ながら20年間合宿の度に支えて頂いた山口正先生や田島町の馬場増男氏のお陰でもある。

人生兎である必要はない。毎日、人目につかないくらいわずかしか前進できないかも知れないが、少しづつでも前進し続ける亀になろう。短時間で立ち上がるのも、ゆっくり立ち上がるのも積分すればエネルギーは等価となる。短時間で脚光を浴びることを考えるよりも、振り返ったときにゆっくりと味わえることをしよう。小山高専空手道部の部員ならびにOB会諸氏達が空手道を続けてやってくれることでそのことを噛みしめてくれる事を念じつつ、“継続だけが力なり！”

押忍

小山高専空手道部創立20周年によせて

小山職業能力開発短期大学校空手道部部長 駒場 進

押忍

小山高専空手道部創立20周年おめでとうございます。

一言に20年と言っても、それは一人の人間が生まれて成人するほどの期間になる。その長い間には、先輩から後輩に色々な事が受け継がれている事だろう。

高専は、5年間教育という事もあり縦のつながりが強い。その事は、2年間という短大での短い付き合いしかできない我々にとって、大変羨ましい事もある。そういう意味においても、高専のOB会の影響はとても大きいものであろう。今、短大では、週2回の小山高専との合同練習をしているが、その度に、高専のOBの方々に細かい指導をして頂ける事に深く感謝している。

また、合同夏期合宿においても、高専OBの方々の多くの参加には、縦の強さを改めて感じさせられる。

入部初日に何もわからず練習に参加すると、そこに高専の先輩達（年は私の方が上でも空手道に関しては紛れもなく先輩であった、と今思っているのだが）が、指導してくれた。その時、大して年も変わらないのに何となく威厳と風格があった。それは、厳しい練習と辛い合宿を乗り越えた自信がその様に見えたのだろう。

夏の暑い日に人里離れた山奥に籠り、空手づくめの日々。早朝マラソンに始まり、巻藁、そして想像を絶する厳しい練習。筋肉痛でトイレに行くのがやっとの体、ヨウドチンキが神經に突き刺さるほどしみる傷ついた拳。楽しみといえば、三度の飯とお昼寝ぐらいのものだ。そんな合宿を5回もくぐり抜けてやっとOB会に入る高専の学生に比べて我々はたった2回で大きな顔のOBである。そこに高専OB会諸先輩の偉大さを改めて感じる。また、そこに黒帯の重さというものもあると思う。

夏合宿もそうであるが、小山短大の演武会も高専の援助がなければ成り立たない。2年間という短い期間で習得した我々のつたない演舞に高専の頼もしい先輩達が花を添えてくれて盛り上がる。高専の有段者の先輩達の演武は、観客のみならず我々も魅了され、目標となる。高専の空手道部の存在がなければ、小山短大の空手道部は成り立たないといっても過言ではないだろう。

小山短大でも高専を見習い、10周年、20周年といきたい。しかし、短大の20周年は2年間を1サイクルとすると、10サイクルである。高専では、4サイクルという事になる。そんなところからも高専の縦のつながりの強さというものが見られる。

これからは、短大も高専を見習い、頑張っていきたい。これからも御指導よろしくお願ひいたします。更に30周年、40周年と続けて頑張って下さい。

顧問冥利

小山工業高等専門学校空手道部指導教官 奥山 優

昭和48年創部以来、20年を迎えた。あつという間であった様な気がする。しかし、一つ一つ想い起こして見ると、なんとまあ色々な思い出を詰め込んで来た20年でもある。

空手に憧れて入部し、練習の厳しさに付いて行けず、目標を失い、去って行った多くの仲間がいた。5年間全うし、空手に魅せられて黒帯を締めて卒業し、現役学生のために通ってくれるOBも居る。

あらゆる学生を見ながら、改めて空手とは何だろうかと自問する。人によって答えは違うだろうが、私はこう思っている。

恐らく入部する新入生の殆どは、強くなりたいという憧れを持つ。至極当然の心理である。しかし、その練習は形が整うまでは基本練習が主であり、先輩のしつこく耐えながら黙々と練習する以外道は開けないので、かなり自虐的となる。

この時、外向的な性格は災いする。多くの場合、活発な力強い、いかにも将来いけるなど感じさせる学生は得てして脱落する。逆に、腕立て伏せが何回もできないような見るからに虚弱そうな、何時止ても不思議に思えない内向的な学生が生き残る。この学生が、練習を通して技を覚え、試合に出て、腹から大きな声を出し、自分を外へ出せるようになると、突如として外交的性格に豹変する。茶席の到来である。しかし、それでも本質的には未だ自分の欠点にくよくよ良く悩む。さらに、自分より強い相手と戦い、多くの優れた技と接すると自信が湧き上がり、やって見なければ分からないという気持ちになる。私はこれを“空手馬鹿”と言う。これが黒帯である。

教育者の一員としてこれほど見事に人格を変えられる教育は他にないと思う。空手道部の指導教官としてその一翼を担えていることを幸せに思っている。

活 動 記 錄

(1983年4月～1992年3月)

■1983年度（昭和58年度）

第10回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター）

7/24 関東信越高専地区大会（於：小山高専）

個人組手：中山尚之(5A)優勝、川田五輪治(4M)2位、大堀敏行(5M)3位

個人形：大堀敏行(5A)優勝、鈴木克幸(3A)2位

団体組手：小山高専優勝

8/6-7 日本空手協会小中高全国大会（於：水戸市）

9/22-23 第26回日本空手協会全国大会（於：日本武道館）

10/30 工陵祭（演武会）

国体代表選手（群馬県赤城国体）：井上修一（3A）

第8回日本空手協会関東大会（於：山梨県都留市）

■ 昭和58年度卒 大堀 敏之

自分の代は丁度10周年の時で、夏にOB、協会本部の方を招き記念式典を合宿所で行い、その年の暮れか年明けごろ？に記念誌を発行しました。また高専大会も小山で行われ、個人組手で大学受験のためにあまり練習に出てこなかった同期の中山に優勝を持っていかれくやしい思いをした事を思い出します。

当時の部員はほとんどが寮生でした。練習が終わり寮に帰るとき、自分が先頭を歩いていく訳ですが、足を横に開いて歩いていたせいか、歩く速さが遅く、後ろからくるテニス部やバスケット部の連中によく追い越されたように思います。

練習に関しては特に変わったことはせずに基本、形、組手と一通りのメニューをこなしていましたが、どちらかと言うと基本、形中心（組手が余り好きでなかった）だったと思います。そのせいかどうかは分かりませんが、高専大会以外はめぼしい成績を残すことが出来ませんでした。もっと色々な事があったと思いますが、あまり思い出したくないのでこの位で失礼します。



関東信越地区高専空手道親善試合、完全制覇

■1984年度（昭和59年度）

5/23	昇級審査（於：宇都宮市体育館）
5/27	昇級審査（於：高根沢コミュニティセンター）
6/24	昇段審査（於：本部道場）
7/1	第11回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター） 個人組手（一般）：川田五輪治(5M)準優勝、井上修一(4A) 3位 (高校)：松葉敏幸(3E) 3位
7/29	関東信越高専地区大会（於：東京高専） 個人組手：鈴木克幸(4A)優勝、川田五輪治(5M) 2位、嶋崎恵一(5M) 3位 個人形：嶋崎恵一(5M)優勝、石岡 誠(5A) 2位、鈴木克幸(4A) 3位 団体組手：小山高専優勝
8/18-19	日本空手協会小中高全国大会（於：静岡市）
8/19-26	空手道部夏季合宿（於：校内）
9/29-30	第27回日本空手協会全国大会（於：日本武道館）
10/6	昇級審査
11/11	第9回日本空手協会関東大会（於：宇都宮市体育館） 出場者（高校）：酒沢正則、中村至夫、塩沢利法、松葉敏幸 (一般)：大堀敏行、川田五輪治

■ 昭和59年度卒 嶋崎 恵一

私は練習が嫌いでした。嫌いだったのでいつも練習中に考えることといったら「この練習が終わったら前の芝生に寝ころがって思いきり休むぞ」とか「この人乗せが終わったら空手なんかやめてやる」とかとにかく楽になることばかり思っていました。こんなことを思いながら5年間も続いた理由は入部したての時にいきなり協会の永年会員になってしまい、高い会費を払ったから意地でも黒帯を取ろうというセコイ観念にとらわれてのことです。こんな人間だったので自分が部長になって旗振りする時には、なんとか面白くて楽しい練習はできないものかと知恵を絞りました。といっても長年先輩から受け継いできた練習方法を簡単に変えることはできません。そこで冬季などの寒くて体が動かない時期には専ら空手の練習はしないで、他のスポーツでやっている基礎体力トレーニングを取り入れてみました。一緒に練習していた部員は「いったいこの部は何部なんだろう?」と思っていたかもしれません。

社会にでてから直接空手が役に立った事はありません（あたりまえか、凶器なんだから）。しかし空手をやったことで自分の体を頭のてっぺんからまさきまで自由に操ることができるようにになりました。他のスポーツを始めたときにこの恩恵に預かることが多いります。

昨年の暮れにスキーにいってケガをしました。左肩の筋肉の一部が切れて腕が上がらなくなり入院手術を受けました。このリハビリを今でもしていますが、不思議なものです。普通に腕をあげようとすると痛くて上がらない腕が、鏡の前に立って“上げ受け”や“横受け”的形を取ると動くんです。リハビリはこれを取っ掛かりにしてかなり早い回復をしています。気持ちだけはいつも若いつもりでしたが体がついてきていない現実を知って、少しは落ち着かねばと反省しているこの頃です。

—「空手の効用？」—嶋崎

■1985年度（昭和60年度）

第12回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター）

7/21 関東信越高専地区大会（於：長岡高専）

個人組手：井上修一(5A)優勝、鈴木克幸(5A)2位

個人形：酒沢正則(4M)、鈴木克幸(5A)2位、井上修一(5A)3位

団体組手：小山高専優勝

日本空手協会全国大会（於：日本武道館）

第10回日本空手協会関東大会（於：千葉）

11/3 工陵祭演武会

■ 昭和60年度卒 鈴木 克幸

思えば、私が在学中の三年時に創部十周年を迎え、“三馬鹿”と呼ばれる先輩方を寮にお招きし、十周年誌を泊まりがけで編集した事を覚えております。

私が在籍した当時というと、県協会の各学校間に特に目立ったところもなく、どんぐりのせいくらべといったもので、まあそれなりの練習をしていました。大会ともなると、その“三馬鹿”と呼ばれる先輩方があまりにも元気がいいので、自分達は試合後のモップがけが、せいぜいの仕事でした。

練習では楽しかったことは一つもありませんでしたが、土曜日となるとグランドでソフトボールをしたり、運動公園に遊びにいったことを思い出します。冬場には寒がりの他のクラブが体育館を遊ばせていましたので、のびのびと使わせてもらいました。その時の練習が遊び主体であったのはいうまでもありません。しかし、なぜか遊んでいる時に限って“三馬鹿”と呼ばれる先輩方が現れるのには弱りものでした。

今一つよく憶えている事に、夏休みに空手道部全員で大洗海岸へキャンプに行った思い出があります。ビールや肉をしこたま買い込んで、バーベキューを始めたところまではよかったですのですが、やはり高専生の無知が出てしまい、ライトを忘れて真っ暗闇の中で砂混じりの肉をつづいた苦い記憶が蘇ります。そこで黒く焼けた体に、はったりをきかせて、高専大会に乗り込んでいったものでした。

合宿というと、恒例の会津田島での合宿は打ち切りとなり、校内合宿という形に変わりました。どういう訳かOBがわいて出てきて、学生とマンツーマン、時には学生の数よりOBの数が多いという日もありました。会津田島の兵糧責めから校内の四面楚歌攻撃に変わった時代でもありました。

そんな中でも国体に出場して余計馬鹿になった井上修一、後輩の中では、練習より宇都宮へ通うのが大変だった主将の塩沢君（宇都宮に確かボルツというカレーの店があって、食べに行ったのか姉ちゃんを見に行つたのか…。現在の奥様が彼女であったかどうかは定かではありません）、テスト中というと部活がない為、寝ているか、成績優秀なこの私の邪魔をしに来た松葉君が、大企業NTTで頑張っているとは世の中不思議という気がいたします。

そんな空手の仲間のおかげで、成績優秀にて小山高専を卒業できた事は、終極至極に存じ奉ります。

押忍

■1986年度（昭和61年度）

（第1回世界空手道選手権大会）

- 6/8 第13回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター）
一般組手：松葉敏幸準優勝
一般形：酒沢正則(5M)優勝
団体組手：小山高専A 準優勝
- 7/24-26 地区大会に向け合宿
- 7/27 関東信越高専地区大会（於：小山高専）
個人組手：酒沢正則(5M)優勝、塙沢利法(5M) 2位、渡辺(4E)・小林(2M) 3位
個人形：酒沢正則(5M)、中村至夫(5E) 3位
団体組手：小山高専優勝（連続V10達成）
- 日本空手協会全国大会（於：日本武道館）
- 第11回日本空手協会関東大会（於：新潟）
- 11/3 工陵祭演武会



朝も早よから地獄の合宿（福島県田島町にて）

■1987年度（昭和62年度）

- 5/31 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館）
- 6/21 第14回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター）
高校組手：小杉博展 3位
- 7/1-2 日本空手協会小中高全国大会（於：駒沢体育館）
- 7/19 関東信越高専地区大会（於：東京高専）…第11回空手道親善大会
個人組手：桧森毅延(4C)優勝、中村昭人(2C) 3位
個人形：桧森毅延(4C)準優勝、丸田篤(3E) 3位
団体組手：小山高専優勝（連続V11達成）
- 8/6 昇級審査（於：宇都宮市体育館）
- 9/6 昇級審査（於：宇都宮市体育館）
- 9/26-27 日本空手協会全国大会（於：日本武道館）
- 8/22-30 空手道部夏季合宿（於：会津田島・神奈川県野外教育施設）
(本年は小山高専、自治医大、足利工大、作新女子短大の合同合宿)
- 10/18 第12回日本空手協会関東大会（於：三多摩）
- 11/1 工陵祭演武会
- 11/29 昇級審査（於：宇都宮市体育館）
- 12/6 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館）



関東信越高地区高専空手道親善試合 V11

■1988年度（昭和63年度）

- 5/8 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館）
- 5/14 高体連大会（於：宇都宮市体育館）
- 6/19 第15回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター）
　　高校組手：福田国彦準優勝
　　団体組手：小山高専B 3位
- 6/26 連盟県大会（県武道館）
- 7/25 関東信越高専地区大会（於：長岡短大）…第12回空手道親善大会
　　個人組手：橋本(2M)準優勝、福田(3C) 3位
　　個人形：小林(4M)優勝、中村(3C)準優勝、水岸(4D) 3位
　　団体組手：小山高専優勝（連続V12達成）
- 日本空手協会全国大会（於：日本武道館）
- 8/6-7 日本空手協会小中高全国大会（於：旭川）
- 8/20-28 空手道部夏季合宿（於：会津田島・神奈川県野外教育施設）
(小山高専、自治医大、足利工大、作新女子短大の合同合宿)
- 栃木県大学選手権
　　新人戦・組手：橋本(2M) 2位、人見(1M) 3位
　　一般・組手：桧森(5C) 2位、小杉(4D) 3位
　　一般・形：小林(4M) 2位、桧森(5C) 3位
- 9/11, 18 昇級審査（於：宇都宮市体育館）
- 10/29 工陵祭演武会
- 11/3 第13回日本空手協会関東大会（於：水戸）
　　出場者（高校）：福田国彦
- 12/11 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館）



空手道部・柔道部合同餅つき大会

■1989年度（平成1年度）

- | | |
|---------|---|
| 5/7 | 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館） |
| 6/25 | 第16回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター） |
| 7/23 | 関東信越高専地区大会（於：小山高専）
個人組手：高正(3C)優勝、小杉(5D) 2位、山田(4M) 3位
個人形：小林(5M)優勝、高正(3C) 2位、中村(4C) 3位
団体組手：小山高専優勝（辛うじて連続V13達成） |
| 7/29,30 | 日本空手協会全国小中高大会強化合宿 |
| 8/12-13 | 日本空手協会小中高全国大会（於：松山） |
| 9/10 | 昇級審査（於：宇都宮市体育館） |
| 10/1 | 日本空手協会全国大会（於：日本武道館） |
| 11/4 | 工陵祭演武会 |
| 11/5 | 第14回日本空手協会関東大会（於：山梨県） |
| 12/3 | 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館） |



新入部員歓迎バーベキュー大会（思川畔にて）

■1990年度（平成2年度）

（東京） 1991年

- | | |
|---------|--|
| 5/20 | 昇級審査（於：宇都宮市体育館） |
| 7/8 | 第17回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター） |
| 8/7-8 | 日本空手協会小中高全国大会（於：大阪） |
| 8/19-22 | 空手道部夏季合宿（於：下今市ホテルファミティック）
(小山高専、自治医大、足利工大、作新女子短大の合同合宿) |
| 9/9 | 昇級審査（於：宇都宮市体育館） |
| 9/24 | 日本空手協会全国大会（於：日本武道館） |
| 10/28 | 第15回日本空手協会関東大会（於：川越市市民体育館）
出場者（高校）：鴇田義行、大野順義
(一般)：高野伸夫 |
| 11/4 | 工陵祭演武会 |
| 11/18 | 小山市空手道選手権大会（於：小山職訓短大） |
| 12/2 | 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館） |

■ 平成2年度卒 中村 昭人

ただ先輩にやらされている練習という考え方なくし、自分の為に！という意識をつけさせた様に努めたつもりです。又、練習以外では、できるだけ明るい雰囲気になる事も心掛けました。しかし、実際は単にけじめのない、だらだらとした活動になってしまった気もしますが……。

合宿は、2年の時から他大学との合同になっていた為、多少楽になったとはいえ、「道場の時計は止まっているんじゃねえか？」と感じる内容でした。しかし、今となっては、つらさよりも楽しかった事の方が印象に残る有意義な経験だったと思います。これも5年間一緒にバカな事をやった同輩のおかげだと思います。

又、自分が就職したあと感じた事ですが、O Bの方々は大切な時間をさいて、私達を指導して下さったのだと今更ながら大変感謝しております。

中村・福田・山田先輩の黒帯授与記念（道のりは遠かった）



■1991年度（平成3年度）

- | | |
|----------|---|
| 4/27, 28 | 高体連関東予選会（於：宇都宮市体育館） |
| 5/19 | 昇級昇段審査（於：宇都宮市体育館） |
| 6/16 | 第18回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター） |
| 8/3, 4 | 日本空手協会小中高全国大会（於：千葉幕張メッセ体育館） |
| 8/17-21 | 空手道部夏季合宿（於：会津田島・神奈川県野外教育施設） |
| 9/8 | 昇級審査（於：宇都宮市体育館） |
| 9/16 | 日本空手協会全国大会（於：東京都体育館）
第3回高体連関東親善大会（於：宇都宮市体育館） |
| 11/4 | 工陵祭演武会 |
| 11/17 | 第16回日本空手協会関東大会（於：群馬県高崎中央体育館） |
| 12/1 | 昇級昇段審査 |
| 1/12 | 日本空手協会県本部鏡開き（於：二荒山神社） |

■ 平成3年度卒 高正 穎雄

私が、空手道部に入部したのは、ほとんど気まぐれな気持ちからだった。

高専に入学してまもなく、私は、ちょっといい汗かける楽しいサークルでも探そうと、放課後、いろんな運動部のサークルを見学して回っていた。

しかし、だんだん見学していくうちに、どこの運動部も部員が少なく、一週間を通して毎日練習している人は、ほんとに少なかった。

そんな折り、グランドを走る空手道部を見かけた。しかも、毎日練習している、人も多そうだ。「でも、何かすごくハードそうだなあ」と思いながらも、「本当は、どのくらいハードなのかなあ」という怖いものみたさのような気持ちが湧いてしまった。今思えば、この時にもう一度良く考えておけば良かったような気がする。

こんな気持ちで入部してはみたが、予想通りかなりハードな練習であったので、何度もやめたい気持ちになったが、何故かやめなかつた。本当の理由は、今でもよくわからないが、たぶん、空手道部が面白かったからだと思う。

空手をやって、一番面白かったのは、入部した年の工陵祭であった。工陵祭といえば、演武会が恒例となっているが、この年、私を含む空手道部一年生は、演武会の後に行われた中夜祭のステージで、空手着を着たまま、酒のみ音頭を踊ってしまった。もちろん、我々はその踊りで見事優勝してしまい、賞品として図書券までもらってしまった。（実は、我々の一人はステージの本番前に、赤まむしドリンクを飲んで、精をつけていたらしい。）

私が、今、空手道部を振り返って思い出すことといえば、空手の練習についてよりは、練習を離れた時に、空手仲間とふざけあったことの方が圧倒的に多く、しかも、はっきりと記憶している。

社会人になった今でも、こうした空手道部での経験を思い出すこともあるし、今思えば、高専時代を思い起こす楽しい想い出になっている。

■1992年度（平成4年度）

- | | |
|---------|---|
| 6/21 | 第19回日本空手協会県大会（於：宇都宮市東勤労者体育センター）
高校・形：高野智秀 2位 |
| 6/28 | 空手道連盟県大会（於：県体育館） |
| 7/19 | 関東信越高専地区大会（於：小山高専）

日本空手協会全国大会（於：蕨前国技館） |
| 8/8-9 | 日本空手協会小中高全国大会（於：宇都宮市体育館） |
| 8/20-25 | 空手道部夏季合宿（於：会津田島・神奈川県野外教育施設） |
| 10/31 | 工陵祭演武会 |
| 11/3 | 第17回日本空手協会関東大会（於：水戸市武道館）
参加者：高野智秀、神田庄吾 |
| 11/22 | 小山市空手道選手権大会（於：小山職訓短大） |
| 1/27-30 | 冬季合宿（寒稽古） |

■ 平成4年度卒 森平 宏

私の年代は、岩館、矢島という強力な仲間があり、3人で協力して指揮をとっていました。岩館は、常に斬新なアイデアを生み出して練習方法を考え、矢島は、常に冷静に物事を判断し、それぞれ私を助けてくれました。この2人の助けがなければ、部を率いていくことは出来なかつたでしょう。

また私達は、自分から行きたくなるような部活を目指しました。そのための手段の一つとして、厳しい上下関係を緩めることにより下級生の意見を取り入れようとした。結果的には練習を欠席する者が増えてしましましたが、やる気のある者は、それなりに伸ばす事ができたと思っています。

そして、学校が5日制になり土曜日が休日になったため、その日は組手中心の練習をおこない、組手の力を強化しようとしました。上級生は最近、この力が足りないとされていたので、ここで強化しようと考え、下級生には早くから組手をおしえて、空手の楽しさを少しでもはやく知ってもらいたいと思ったからです。

私の部長としての活動は、合宿に始まり、合宿に終わりました。その間には、演武会や寒稽古、大会等、数々の行事が行われ、多くの問題とも直面してきましたが、皆さんに一番言いたいのは、部というものは、皆で作り上げ、盛り立てていくものだということです。一人一人が主役である事を改めて自覚し、皆で協力して、大きな目標を達成させて下さい。

日本空手協会栃木県大会

日本空手道連盟栃木県大会成績

(下野新聞より抜粋)

1983年度(昭和58年度)

小学低学年の部は	
組手部	形は菅又
組手部	形は菅又
日本空手協会県大会	
第十回日本空手協会県大会(下野新聞社後援)は十九日、宇都宮市勤労者体育センターで二四四	



この向きでいいのです。小磯先輩の岩鶴

【空手道】

(県道館)

「少年男子」△組手の部決勝	
片岡	2-0 大
片岡	3-0 井
片岡	3-2 佐
片岡	3-2 小山
片岡	3-0 井
片岡	3-0 佐
片岡	3-2 小山

反省点もチヨッピリ

○成年男子・形の部は宍道直歴十五年の石川紀雄五段(貞園・修道館)が、二年ぶり三度「S王座」に就いた。

予選を36点の最高得点をマークして決勝に臨み、決勝では昨年の38点を0-1で上回る38-1点のビサで制した。それだけに喜びもひとしお。「まさか勝てるとは思わなかつた。挑戦者のつもて無欲に。そして形をきちんと心掛けました」と満面に笑み。それでも「まだまだ満足の行く状態ではありません。失敗もかなりありましたから」と反省点をチヨッピリ。

過去三度国体に出場した同選手。柄の葉のベスト8が最高得点38-9点(3位)と成年男子△組手の部準決勝

【少年女子】△形の部決勝	
①水谷和子(宇都宮)	39点②植木(宇都宮)
③大庭理(宇都宮)	38-9点④坂口(宇都宮)
⑤大庭理(宇都宮)	38-7点⑥下部(栃木)
⑦大庭理(宇都宮)	38-4点⑧恒松(宇都宮)

ます」と気を重くしていた。

1984年度（昭和59年度）



小杉先輩“決めた”

富田が男子
組手を制す

日本空手道大会第十二回砺木県空手道大会(下野新聞社後援)は二十三日、宇都宮市運動場で開催された。男女の種目は、點戦を繰り上げ、一般男子組手を富田勝(宇都宮)、女子組手を青柳伸江(同)がそれぞれ制した。また中学生組手、形は本多久美(大田原)が、小学生高学年組手は吉川英輔(同)が優勝を飾った。

1986年度（昭和61年度）

1987年度（昭和62年度）

小山
宇都宮

重量級制す

女子は工藤(真岡)が王座に

自成
由年組
男子

卷之三

第三十三回県空手道選手権大会兼関東大会予選・固体予選(下野新聞社など後援)は二十六日、県武道館で熱戦を展開した。

成年男子自由組手重量級は小山哲治（宇都宮）が優勝。同安全真組手重量級は石原功（鹿沼）が制した。成年女子自由組手は工藤秀美（真岡）

林(足利) ▷ 中野村(足利) ▷ 長谷川(足利)
岡(足利) ▷ 関良成(同) ▷ 重政(足利)
都(足利) 摂本(河内) ▷ 重政(足利)
小山城(足利) ▷ 岩延政雄(足利)
岡(足利) ▷ 松(河内) 松沉(足利)
△ 安貞親(足利) ▷ 軽戸城
△ 安貞親(足利) ▷ 軽戸城
△ 安貞親(足利) ▷ 軽戸城

戸哲也(眞鍋)②菊地成(同)
③高橋(芳賀)④沼田(那須)⑤
金真相手⑥菅取幸一(宇都宮)
⑦武田千明(同)⑧浅川(同)
杵(同)△型⑨見目芳太郎(同)
⑩都宮⑪高久吉人(坂木)⑫海

が頂点。型は中沢博子（真岡）
が栄光をつかんだ。

深町(同)長島(同)△中量級
①秋沢靖幸(塙谷)②飯山勤(芳
賀)③岩崎(同)鈴木(宇都宮)
○重級④石川功(高田)⑤日向

原（宇都宮）
【少年女子】 ◇型 ①本多久
(那須) ②閑根麗子(宇都宮)
海老沢(真岡)

室井(大田原)が型の部制す

男子中

田川

日本空手道協会第十五回横濱大会（下野新聞社後援）が十九日、宇都宮市勤労者体育センターに約四百人が参加して行われた。剣の部では中学男子で吉井義丈（大田原）が、一般では石川博之（足利）が優

勝。相手の部一一般に橋本淳 （自衛医大）が詞した。	②桜井勝（宇都宮）③新裕一郎 （大田原）
【翻】△小学生低学年 ①川 基之（足利大）②安藤誠（小堀高 木村和夫（足利大）	④高田勝（宇都宮）⑤鈴木典典 （高崎）
△小学生高学年 ①川原佳正 （宇都宮）②伊藤圭祐（足利大）	⑥中学校 ⑦鈴司義典（大田 原）⑧鈴木順子（國）⑨川原和 足利大
△中学生 ①川井真衣（大田原） ②吉川俊輔（氏前）③西田歩進（高 根沢）	△一般 ④青柳伸江（宇都宮） ⑤本多久美（大田原）⑥鶴巻春子 （西尾郷町）
△高校生 ⑦田井尋（大田原）	【翻】△小学生低学年 ①川 基之（足利大）②安藤誠（小堀高 木村和夫（足利大）

川越之(足利町) ②安藤義(宇都宮)
高宮 ③深次守(尾羽) ④水口真好
香(大田原) △小学生高野年(伊賀郡)
△中学生(足利) ①佐藤桂子(足利)
△中学生(足利) ②田舎井辰(足利)
△安藤哲也(同) ③平野充宏(高
根沢) ④曾文俊雄(足利)
△高校生 ①西井幸一(大田原)
②福田国蔵(小山高等) ③青木拓
也(大田原) ④田嶋博規(真岡)
△一般 ①橋本厚(自衛隊)
②鶴田和司(大田原) ③小堀義司
(氏家)

△中学生女子 ①鈴木順子(大
田原) ②鈴印美穂(同) ③石川惠

利(足利郡) ②植木義典(宇都宮)
③高田勝(同)

△団体 ①自遊医大△ ②足利大
小山高尙昌

(若柳) ◇型 ○山田源蔵(眞田)
◎口下部学(坂木) ◇柳木(芳賀曾)
【成年女子】 ◇自由組手 ○
藤秀美(真岡) ◇本田ひづる(高木)
○浅野(同) 藤沢(矢掛) ◇青柳
型(中澤) ○中澤みゆ(真岡) ◇青柳
江(宇都宮) ◇大久保(真岡)
【少年男子】 ◇自由組手 ○
戸哲也(真岡) ◇稀地且成(河内)
○高橋(芳賀) ◇沼田(那須) ○
全真組手 ○高取一(宇都宮)
○武田千明(同) ◇浅川(同) ○
杵(同) ◇型 ○堀木芳太郎(高木)
都(同) ○高久吉人(坂木) ○海
原(宇都宮)
【少年女子】 ◇型 ○本多久
(那須) ○根岸麗子(宇都宮)
海老沢(眞岡)



大野先輩まだ余裕

男子組手は大石 女子は山口制す

日本空手道選手権大会
第十七回日本空手道選手権大会
会は八日、宇都宮市勤労体育馆
育センターで一般男女組手など16種目に熱戦を展開した。
一般男子組手は大石延正（自
治医大）、女子は山口明美（西
那須野）がそれぞれ優勝。団
体組手は宇都宮支部Bが制した。

【男子】 ◇組手▽一般 ○大石
延正（自治医大）②渡辺克成（同）
③小磯司（宇都宮）高田勝（同）
△高校 ○井井薰丈（大田原）②
仲根宏典（高根沢）②西脇伸生（宇
都宮）橋田幹（小山高尙）△中
学 ○井瀬孝典（宇都宮）②齊藤
教志（同）③草野卓也（同）佐藤
亮一（同）
◇組手▽一般 ○山口明美（西
那須野）②佐藤恭子（同）
川雅道（真岡）②井井一紀（同）
○山崎憲一（宇都宮）朝野仁（栗
羽）
◇組手▽一般 ○山下徵哉（自治
医大）②塙越邦男（足利）③高田
勝（宇都宮）△高校 ○松井勝（宇
都宮）②井堀宏典（高根沢）②布
施木徹（宇都宮）△中学 ○広瀬
佳正（宇都宮）②斎藤恵志（同）
○草野卓也（同）
【少年】 ◇組手▽一般 ○伊藤
有（足利）②石川祐仁（同）
○加藤聰子（氏家）△低年 ○山
崎憲（宇都宮）○江川達郎（二
宮）③大田原裕也（栗谷）
【女子】 ◇組手▽一般 ○山口
明美（西那須野）②本多久美（大
田原）△高校 ○井井薰丈（大田原）
田原）②齋原英子（西那須野）山
中ひの（小山）△中学校 ○鈴木良子
（大田原）②佐藤恭子（同）佐藤
亮一（同）
◇組手▽一般 ○宇都宮義陽（大
田原）②本多久美（同）③山口明美
(西那須野) △中学 ○鈴木順子
(大田原) ②佐藤恭子（同）③
鈴木智子（氏家）
【日本】 ◇組手 ○宇都宮支部
Bの佐藤恭子②井井一紀
【支部対抗】 ○宇都宮③大田原

（東京）が制した。

（東京）
高）③武田（宇都宮）波ノ矢（真
岡）
△安賀組手 ○坂本雅洋（真
岡）
○福山（小山）高田（宇
都宮）△同中量級
○関本昌男（真
岡）②鈴木（佐野）③吉田（佐野）
高橋（真岡）△同無差別級
○坂
沼允夫（宇都宮）②入沢（真岡）
○小山（宇都宮）田中（真岡）
○安賀組手○坂下級
○波浦（那須）②田代（宇都宮）
○伊藤（今市）福井（宇都宮）△
同70kg級
○坂本昌男（宇都宮）
○坂山（芳賀）②清水（宇都宮）
秋沢（塙）
△型 ○瀬川一章（足利）②
畠目（宇都宮）③橋下（河内）
△団体型
○坂本昌男②坂本昌大
○坂井工業
○女子△自由組手 ○和田恭奈
子（真岡）②海老沢（真岡）③大
木（宇都宮）大竹（宇都宮）
△型 ○本多久美（大田原）②
△坂井工業
○女子△自由組手 ○和田恭奈
子（真岡）②海老沢（真岡）③大
木（宇都宮）大竹（宇都宮）
△団体型
○坂本昌男②坂井（小山）
△坂井工業
○少年△男子△自由組手
○宇都宮③宇都宮
○少女△型 ○宇都宮
高）③海老沢（真岡）③高山（宇
都宮）
○坂本昌男③高山
女高）
○坂本昌男③高山
女高）

第三十五回空手道選手権
大会兼関東大空手道選手権
選手十五日、真岡市体育館で
成年男女の自由組手など14種
目を行った。

成年男子自由組手無差別級
は笛沼允夫（宇都宮）が優勝、
同女子自由組手は石橋美奈子

成年女子自由 組手は石橋▽

○坂本昌男（真岡）③高山（真岡）
○坂本昌男③高山
女高）
○坂本昌男③高山
女高）

県空手道選手権

第三十五回空手道選手権
大会兼関東大空手道選手権
選手十五日、真岡市体育館で
成年男女の自由組手など14種
目を行った。

成年男子自由組手無差別級
は笛沼允夫（宇都宮）が優勝、
同女子自由組手は石橋美奈子



ホッとしてます（演武会）

郡司(大田原)
型、組手を制す

第十八回日本全国新聞大賞部大会（下野新聞社後援）は、十六日、宇都宮市労働者センターで開催され、相手に新井義廣（久保田）。

榎戸(真岡)が男子軽量級制す

1992年度（平成4年度）

一般女子の部

郡司(大原)2冠 制して女王

体戦を行つた。
一般女子の部では都筑美
陽(大田原)が相手、琴の部の
二兎(小早川)が相手、琴の部の
白井大介(黒磯)、小学
5、6年の部の杉田友裕(足
利)も「冠を連戦」した。一
般団体戦組手は宇都宮が
少年支部対抗戦は宇都宮支
部が制した。

- ◇：現在の職業
 ○：現在の仕事内容
 ◎：求人、求仕事、求嫁（婿）、等
 ▲：在学中の思い出
 ■：同期、先輩へのメッセージ
 ★：先生へ一言
 %：後輩へのメッセージ
 ∞：その他

【昭和50年度卒業】

≪ 森田 一 建築学科卒 ≫

- ◇：天理教 布教師
 ▲：10周年誌の時に投稿させて頂きましたのでとくに、“今回これは”と言うはなしはありません。後輩の話に期待します。

≪ 松本 健司 建築学科卒 ≫

- ◇：栃木県警察 佐野警察署 刑事課
 ○：佐野警察署刑事課にて、凶行事件を担当
 ◎：警察官を希望する若者がいましたら、ぜひ一報して下さい。
 ▲：だらだらと過ごしていた学生生活の中で、同期生、後輩と共に何かに打ち込みたくて空手愛好会を創設しました。その後も良き指導者に恵まれ同好会、空手道部と昇格して行きました。生まれて初めて空手という武道に巡り会い、学生生活に張合いが生まれ、何とか無事卒業することができました。もし、何のクラブにも所属せず5年間の学生生活を過ごしていたなら何の思い出も残らず卒業してしまったものと思います。
 ■：大橋（同期建築学科卒）へ あまりえらくなりすぎて一緒に酒を飲めなくなってしまったのが残念です。そのうち訪ねて行きます。覚悟しておけよ！
 ★：退官された石神先生、転勤された岩田先生、長い間本当に空手道部のご指導ありがとうございました。先生方のおかげで今日の空手道部があることを深く肝に命じ感謝しています。
 %：小山高専にあって、空手道部ほど、急速に成長したクラブはないと思います。しかし、その活気あふれる練習風景等は他のクラブと比較しても決して見劣りするものではありませんでした。今後も小山高専に空手道部ありとその名声をとどろかせて下さい。
 ∞：今でも目を閉じると、拳から血を出しながら巻藁を突いたことや、砂利道を「オーッ」と声を出しながら素足でランニングしたことが浮かんできます。本当に良き思い出です。在学中の空手道部の皆さん、強いとか弱いとかにこだわらず最後まで空手を続けて下さい。私のように卒業して20年たった頃になっても本当に心に残りますから。

≪ 大橋 好光 建築学科卒 ≫

- ◇：東京大学工学部 建築学科
 ○：木質構造に関する研究。特にモーメント抵抗接合。木造軸組構法
 ★：石神先生、奥山先生、岩田先生、“押忍”お元気ですか？あんな厄介者ばかりのお世話を

していただき本当に恐縮です。手を抜いている奴は遠慮なくしばいてやってください。
永久顧問の安藤先生いまでも時々は空手道部に顔を見せてくださっているのでしょうか。
これからもよろしくお願ひ致します。

∞：学生時代っていうのはいま考えてみれば本当にひまだったなあと思う。部活をやってれば
よかったですなんて今では信じられない。なーんて言っている俺は働きすぎに違ない。みんな
働きすぎには注意しよう！学生は？遊びすぎには注意しなさい。

＜ 半田 耕治 機械工学科卒 ＞

◇：東光電気株式会社 企画部 情報システムグループ

○：情報システム（生産管理、経理、営業、人事）の開発、運用

▲：空手道部（当時は同好会）創設後の初めて合宿の事が一番印象の強い思い出になっています。
遠足気分で行ったところが、始めからきつい練習で体がなれるまで非常に苦しい思い
をしたのを思い出します。

■：一期の皆さんへ私も含めて前厄を迎える年になってしまいましたが、週末にはスポーツで
体を動かして、健康に気を付けて頑張っていきましょう。

★：御無沙汰しております。近くに住んでいますので、顔を出さなくてはと思っているのですが、なかなかそうもいかず申し訳なく思っています。これからも部の面倒よろしくお願ひ
致します。

%：チャレンジ精神を持ち続けること。頭の中で考えて結論を出さずに計画を立てて実行する
ことが大切だと思います。あの苦しい合宿を乗り越えてくれれば、社会に出て乗り越えら
れないものはありません。頑張って下さい。

＜ 早乙女 常夫 建築学科卒 ＞

◇：（有）サオトメ商会

○：理美容室へ材料を卸す仕事

◎：営業やりたい人いたら

▲：合宿の練習はきつかった。同期の松本君のうしろについて前蹴りの移動ゲイコをしていた
が、松本君の道着の尻部にくそがついているのを見ながら前蹴りのケイコをした。

■：皆、頑張ってますか？

★：先生は心身ともに素晴らしい武道家であったと思う。先生に空手を学べたのは高専における幸運な事物の一つだと思っております。

%：若いうちに体を鍛えるのはよいことだと思う。精神も鍛えて立派な武道家になってほしい。

∞：今年1月27日にガン闘病中の母を亡くしました。返信が遅れて申しわけありませんでした。
49日も終えてやっと立ち直りができそうな気持ちです。

【昭和52年度卒業】

＜ 羽部 義孝 工業化学科卒 ＞

◇：東洋エアゾール工業（株）

○：エアゾール製品（ヘアスプレー、ヘアムース、シェービングフォーム等）の試作、研究技
術サービス等

▲：裸足のランニング、血だらけの巻わら、高根沢合宿での夜の花火大会（うるさいと怒鳴られたっけ）

★：岩田先生と組手中、顔面に受けた膝げり、鼻をかんだらお岩さんの様に瞼が腫れたっけ。
びっくりしたなもう。

＜町田 茂 機械工学科卒＞

◇：埼玉県庁 企画財政部情報管理課

○：汎用コンピューターの運用管理 平成6年4月より、埼玉県高齢者生きがい振興財団に事業課長として出向します。 048-831-2206

▲：「空手をやっていなかったら、今とまったく別の生活になったことだろう」と思うこのごろです。

■：3期生のお2人さん、早くしなさい。

★：いつまでもがんばって下さい。

%：①まず栃木県のチャンピオンを目指せ ②私は高専のOBです（顔ぐらいおぼえろ）

∞：連絡が遅い。

＜和久井 勉 機械工学科卒＞

◇：トステム株式会社

○：下請け工場（外注工場）の生産指導を担当していて、半分位は工場にでている。接待は全くない。但し時々家により、ちょっと一服

◎：私の子供は、女2人で長女の婿を探しています。長女は当年取って19歳、実は9歳で10年後は婿をもらいたい。空手経験者と酒の好きな方歓迎。

▲：会津田島の合宿で風邪でダウン……。 40度くらいの熱が三日間続いた。（医者に行ったか覚えていない）練習は休めて嬉しかった。

■：一期生の皆さん お元気ですか？ 私は元気です。

★：岩田先生へ 新築おめでとうございます。

%：空手道部の皆さん学校へいく機会が少ないため、会えませんが練習に励んで下さい。遊びは社会人になってからも十分にできます。

【昭和54年度卒業】

＜笛沼 充夫 電気工学科卒＞

◇：電力供給で発電所の担当です。機械物（ディーゼル7010馬力×3台）で 15200KVAの発電をしています。見物したい方はいつでも見せます。

○：アルミの製品は当社へ御注文下さい。トステムでなく！！

▲：やはり5年の時、山梨〔関東大会〕での優勝が思い出深いのと、甲府までの電車の中で顔の印象は薄いのだが、若い女性（学生？）2人組の歌がすごく美しくハモっていたのがよかったです。それとその時の交通事故（合宿5重衝突）当事者は×××だったと思うヨ。

■：自分に素直にならないと“だめ”ですヨ、先輩！恋を邪魔したダメな後輩より。

★：あの合宿の白髪の数は36本だった。

%：3人目の国体出場選手がそろそろ出てもいいのではないか！

∞：OB会報（会員）を作成しますので、学生、OBは協力して下さい。

◀ 阿久津 喜三夫 建築学科卒 ▶

◇：株式会社モック

○：ログハウスの製造・建築（岩田邸は（株）モック第1号です）

ウッドフェンス・ウッドデッキ製造・販売・施工、集成材の製造・販売。

◎：OB諸志・現部員とにかく岩田先生の家へ行って見て下さい。マイホーム建築予定の方を御紹介下さい。

■： 笹沼、関塚、早く結婚しろ！

★：仕事ください。紹介して下さい。

%：学生時代に一番身につけなければならないのは学問（勉強）よりも精神だと思います。

∞：（株）モックを設立して1年たちました。（平成5年2月2日設立）今は会社と仕事が中心の生活です。みなさんご支援お願いします。

【昭和55年度卒業】

◀ 小暮 和広 機械工学科卒 ▶

◇：日立精工（株）

○：各自動車会社向けの専用工作機、コンピューター家電機器用プリント基盤穴開機等の機械設計。

★：これからも御指導よろしくお願いします。

%：空手をやっていると、社会へ出てからいろんな意味で一目置かれる立場になります。卒業するまで、ぜひ続けて下さい。

∞：二年ほど前にUターンして、地元で仕事をしています。学校に近くなつたので、日頃の運動不足とストレス解消のため、部へ行きたいと思っているのですが、行動が伴いません。

◀ 三浦 副二 機械工学科卒 ▶

◇：シンコー電気工業

○：受電設備、自動制御盤、電気工事設計施行

▲：授業を終え、本来なら道着に着替えるのだが、その日に限り同期の部員達と小山駅前にある大人の映画館へ行ったところ空手道部の一つ先輩のSさんと会ってしまった。がしかし次の日の練習では何のおとがめもなかったのである。

■：同期の菰田にいい嫁さんを世話してやって下さい。

★：岩田先生、大変ごぶさたしております。先生の気合いの「タイサーッ」をまた聴きたいです。

%：空手で汗を流している学生の皆さん、空手もいいけど勉強もね。

◀ 菰田 隆男 工業化学科卒 ▶

◇：（株）本田技術研究所

○：本田の二輪を開発している埼玉の朝霧研究所で、開発管理部門で働いております。

◎：求金（家のローン返済が大変）

- ▲：高専の関東甲信越大会でタバコを吸っている所を見つからってしまった。合宿で芸が無いので苦労した。
- ：同期の小林範久へ、YAMAHAのバイクもいいけど、HONDAのバイクはもっといいぞ。
- ★：お世話になりました。ホソボソと食べてあります。
- %：勉強と部活と遊びの全てを若いうちにやるように。
- ∞：なるべくHONDAの車に乗りましょう。

『小林 範久 機械工学科卒』

- ◇：ヤマハ発動機（株） モータースポーツ開発部
- ：レーサー開発、実験
- ▲：夏の会津での合宿は辛く、楽しく、良い思い出です。
- ：菰田の頭（髪の毛）が心配です。
- ★：ご無沙汰して申し訳ありません。
- %：一生懸命にやって下さい。

【昭和57年度卒業】

『川田 正美 機械工学科卒』

- ◇：日本たばこ産業（株）食生活研究所 第三チーム
- ：たばこに続く、事業の柱として、食事業を立ちあげるため、新商品の開発。
- ▲：大阪であった小中高全国大会の後、同期3名と帰ったのですがかなり時間が遅くなってしまったため、東北線をそのまま乗り続け、ベット替わりとし、天豊まで行き、下車せずUTURNし、途中で見つかり、優しいおじさんだったため片道の料金でゆるしてもらった。今考えると、大々的に取り上げられれば廃部にもなりかねないことだったとぞっします。
- ：S先輩、M先輩、このS&M？先輩がいるから今日の私があるのです。
- ★：岩田先生、そのパワーの源はなんですか。奥山先生、これからも後輩をよろしくお願いします。滝沢先生、変に空手の世界に染まらないで、まともな目で見ていて下さい。
- %：何よりも、楽しくやること、一生懸命やること、そして逃げないこと。

追伸

小山高専空手道部創部20周年おめでとうございます。

“20年”と言葉にするとあっけないものですが、私自身一つの事を20年も続けられた事はいまだかつてありません。会社は長く続けていることの1つですが、これは食うためだからであって、でなければ続いたかどうかはなはだ疑問であります。もっとも、人間は32年も続けておりますが、これはやめる訳にも行かないからであります。

ここに、改めてこれまで御指導を続けて下さった先生方に、「ありがとうございます」と、心から申し上げます。

私も、ここ数年はほとんど空手とも疎遠になっていますが、空手を始めてからもうじき17年になろうとしています。改めて振り返ってみると、数多くのエピソードがまさに走馬燈のように駆け巡り、感慨深いものがあります。好むと好まざるにかかわらず、空手は私の人生に大

きな影響を与えると共に、多くの思い出を残してきました。その中のいくつかを、つれづれなるままに、ご紹介しようと思います。

=合宿=

何と言っても誰もが書いているかもしれません、外せないもの。高専空手道部に在籍した者にとって、忘れられない事を1つ挙げろと言われたら、迷わず10人中10人が挙げるであろう合宿。私もその一人でありますので、私にとって合宿とは何だったのかについて一事述べたいと思います。

まずは、合宿初体験である1年の合宿について。中学を出たばかりのわずか4ヶ月足らずしか空手を経験していない小僧にとって、やはり途轍もなく厳しく恐ろしいものでした。私は、中学の時の部活で練習も上下関係も校内で、1、2の恐ろしさの陸上部にいましたし、ましてや高専の寮の方がよほど空手道部より封建的でしたから、合宿に行くまでは、「稽古中は鬼より厳しい先生や先輩たちもなんだかんだと言っても皆大人で、稽古が終われば皆善い人なんだ」と思って合宿に参加して大きな思い違いに気が付きました。あのつづら折りの峠道を1km、また1kmと合宿所に近付くにつれ、先輩たちの表情が重く暗く厳しく変貌していく様子と、砂利道になり、道幅もどんどん狭くなり、車がすれ違うのも困難なあの合宿所までの風景は、充分にそれを予感させるものでした。そうです、合宿中は、みんないつでも鬼なのです。

その鬼に囲まれた合宿の中で、1年生にとって唯一の安息の地が、厨房なのです。そして、その安息の地を最も利用していたのが、この私です。これは、現役、OB含め最も利用率が高いと自信を持って言えます。というのも、合宿が始まってすぐに当時のマネージャーでした里中（現、岡田）さんに認められ、それ以来、食事当番のエリートの道を走り続けてきました。食事当番も、メリットばかりではないのです。最大のデメリットは、昼寝の時間がなくなるということですが、午後の稽古を途中で抜け出せるという幸運とは比較できないものがあります。皆が、汗を流し、歯を食いしばって稽古をつづけている中、抜け出す時、羨む視線に後ろめたさを感じながらも、廊下に出ると思わずスキップしそうになるほどの嬉しさでした。かといって、私がさぼり虫だった訳ではない事は、一緒に稽古した誰かに聞いて頂ければ判ると思います。しかし、1年時の合宿は必死でしたからいつの間にか終わってくれました。それが2年の合宿になると中身を知ってしまいましたからもういけません。いやでいやで、やらされているというような意識が強く、余り記憶にも残っていません。それでも、根が馬鹿なのかそれほど好きだったのか、たぶん前者だと大方の人は指摘すると思いますが、それほど嫌なら辞めればいいのに空手道部を辞めようとは、卒業するまで一度も思った事はありません。やはり馬鹿なのでしょうか。3年以降の合宿は、自分では「攻め」の合宿ができたと思っています。3年の時は、そこそこ空手らしきものが身に付き始め、黒帯も目前ということもあります。4年の時は、すでに岩田先生が香川に赴任されておりましたので、幹部の一員として気合いを入れざるを得ず、また、二段取得の最短記録のため自然と稽古にも身が入りました。このときの合宿は、2週間前から毎日10km位走り込んで臨みましたので、初日から全開ぱりぱりで動けたと記憶しています。5年の合宿は、いくつかの問題があり、初めて学内で行ったため緊張感が氣薄になり、また、主将である前田が試合で顎を骨折し休部中であったため、副将である私が取り仕切ることになり、気合いを入れざるをえない合宿でした。現役の5回の合宿も嫌だ嫌だ言いつつも、私は結構好きでした。慣れてくるとあの緊張感もいいものだし、みんなで何かイベントをする事が好きだったから、私は私なりに合宿を楽しんで来ました。

そのくらいですから、OBになって合宿に来なくなる筈がなく、会社の研修で九州に行って昭和57年の合宿以外は全て参加しております。私は、当り前のように思っていましたが、いかがなものでしょうか。しかし、合宿参加回数では、陵空塾で私は3番か4番くらいでやはりぶっちぎりのトップは、笹沼先輩でしょう。高専、他の学校、協会、連盟と全盛期は、一夏に5~6回やっていたのではないでしょうか。次がたぶん、岩田先生で、その次が町田先輩でそのまた次が私ではないでしょうか。

卒業後、良き先輩達に恵まれた私は、高専以外の合宿にも参加してきましたが、その中で、印象的な合宿と言えば、まず、香川職訓短大の和歌山県古座川町の小川小学校での合宿です。2年間という短い在学期間にも限らず、一生懸命に稽古する姿は、近ごろの高専の学生にみられなくなった気迫を感じました。また、あの合宿には風呂がなく、学校の側を流れる小川で石を使って堰止めて、水溜りを作って風呂にしていました。夏とはいえ山から流れ出す清流は、身を切るように冷たく、今でも思い出されます。確か、その合宿には、松葉、酒沢、塩沢等も参加していたと思います。

そして、もう1つ、忘れられない合宿は、高専、足工大、自治医大、作短の4校合同合宿を、あの神奈川県野外教育施設（通称、合宿所）でやったことです。あの合宿では、神奈川県への施設利用の申請から打ち合せ、保険の手続き、と合宿に関わる一切をさせて頂き、とても勉強になりました。また、合宿がいかに大変なものか再確認できました。高専の学生にとっては、不自由なことも多かったと思いますが、あれはあれでよい経験だったのではないでしょうか。

ということで、私は、合宿が好きです。是非、一度OB会の合宿を、二泊三日温泉付きでやりたいのですが、いかかでしょうか。

=帯=

空手に限らず武道を志したものは、その帯について単なる繊維の集合体という以外に特別な思いいれがあるのではありませんか。私の帯にまつわる昔話を2、3ご紹介します。

私が空手道部に入部した当時、黒帯を締めていたのは、岩田先生、笹沼先輩、上岡先輩の3名であったと記憶しています。笹沼先輩、上岡先輩の帯は、若干ほつれているところもありましたが、まだ真新しく光沢があり硬い芯があるような張りがありました。それに対して当時の岩田先生は、今のようになん本も黒帯を持っていませんでしたから（たぶん）、学生のころから締めていた帯を締めていたのですが、その帯が先輩達と対称的に表層の儒子ばかりか本体までぼろぼろ擦れてやや芯が出てきているような状態で、色も元は黒だった部分が焦げ茶に変色し、始めてみたときは「あの人は何帯なんだろう。」と思ったものです。ここであの人、という表現を使っているのは、岩田先生の場合、帯ばかりではなくその風貌や態度なども、それまで持っていた先生というイメージからかけ離れたものであり、もしかしたら学生かも知れないという気持ちがあったからです。

話が逸れたついでに、もう一人先生か学生か判断がつかない人がいました。不精髭をのばした、ぼろぼろの何色かも良く判らない帯を締めたその先輩、実は、関塚先輩だったのです。その時先輩は2回目の3年を始めた頃で、後から茶帯だと分かったその帯は、代々空手道部に伝わる（と言っても3、4名くらいと思われますが）帯で、もちろん洗ったことなどないものでしたから、岩田先生の帯と同じように見えたのです。この帯は、その後何名かの先輩の後、私も黒帯を締めるまで締めさせて頂きました。

話を戻しまして、岩田先生のぼろぼろの帯ですが、実は私、その帯も一度締めたことがある

のです。それもフライングして茶帯の時にです。というのは、確か3年の時の大阪で行われた協会の小中高全国大会だったと思いますが、試合前当時茶帯だった私に、「そんな帯じゃなめられる」とその帯を貸して下さったのです。黒帯になりたくてなりたくて、私なりに一生懸命稽古していた頃ですので、それはもう嬉しくて、「えっ、ほんとですか。これ締めてもいいんですか」と舞上がりながらばかりでした。初めて締めた帯が、あの気合いの入った帯だった訳ですが、渡されたときは普通の帯のように張りがなく崩れかけたようなふわっとした感じで、ぐつ、と締め込むと伸びるんです。当り前の帯のつもりで締め込んだ私は、「切れたらどうしよう。謝って済むもんじゃないよな。」とビビったものです。しかし、一端締め込むとそのなじみというか一体感は素晴らしい、寸分と緩まず「ああこれが黒帯なのか。」と、もう一度感動してしまったものです。

それから1年も経たないうちに、私も初段になり黒帯を締めるようになったのですが、黒帯を頂くセレモニー、10人回しはやはり忘れないイベントの一つです。それまでに、入部以来10数名の10人回しを見てきましたが、あの異様な雰囲気には慣れるはずもなく、できればやらずに済ましたいくらいでした。しかし反面、やっと空手らしいことをできるようになり、少しほは自信もありましたので、自分を試してみたいという気持ちも若干はありました。始まってしまうと、かっこ良く決めるなんてことはどこかに飛んでしまい、とにかく「やられたらやり返す、一発でも多くいれてやる」と言うような気持ちでがむしゃらにやっている内に終わってしまい、思っていたほどは苦しく無かったように記憶しています。とはいえ、普段の稽古にはない十分すぎる手ごたえを心身ともに味わうことができました。それというのも、当時は空手道部が最も充実していた時期でしたから、敵はほとんどが先輩であり後輩など出てくることもなく、全く息つくひまさえなかったからです。

その後も、多くの10人回しが行われ、多くの黒帯が生まれてきましたが、空手の世界からちょっと離れて見てみると、あれは途轍もなく異常です。とてもご父兄など見せられないものであり、知らない人が見たら正に集団リンチです。10人回しは、黒帯の自覚と自信を持たせるため無くしたくない、無くしてはならない素晴らしいセレモニーであります。しかし、それ以上にあんな飛んでもないことを嘗々と続けてこられた、部員相互の信頼関係こそ無くてはならないと私は思います。また、その信頼関係が生まれる雰囲気を作り上げた指導者各位のパーソナリティーには、敬服いたします。現役の学生には良く判らないかも知れませんが、小山高専空手道部の雰囲気は、空手会では異端児です。空手の世界は正に押忍の世界であり、先生あるいは先輩が言った事に対しては、白が黒でも押忍、であるのが一般的であって、でなければ自由奔放にやっているかわりに全くまとまりがないかのどちらかです。高専空手道部のように適度の緊張感を持つつ、相互の信頼関係を持っている団体は、希有の存在であると思います。特に、OB会などでは、一緒に稽古した事がない様な先輩に対しても冗談が言える、これはいつまでも守って行きたいものです。

＜ 小泉 三智雄 工業化学科卒 ＞

◇：日本ソフトウェア開発（株）

○：都銀のオフラインシステムの保守・現調（設計及びプログラムの作製等）。'93年4月より社名が「（株）カテナ」に変わります。「ハテナ」ではありません。念の為。
(実は合併吸収されてしまったのです。ハイ)

◎：今のところ間に合っています！

▲：今思えば入部当初沢山いた1年生の中から卒業時には4人しか残らなかった内の1人としてよくがんばってこれたと思う。練習はたしかにつらかったと思うし、何度かさぼったことはあったが、不思議と退部したいと思ったことは一度もなかった。小山高専を受験した理由の一つに空手道部の存在を知ったからであり、単に体を鍛えたいといったことではなく、意外と思われるかもしれないが純粋にケンカに強くなりたい願望が心の中に強く存在していたのも事実であった。（でも一度もケンカをしたことはありません。）

■：高橋君へ……今度、中山へ稼ぎにいこうぜ。川田君へ……たまには顔を出すようにします。それから年賀状ありがとう。前田君へ……元気かなー。

★：在学中には色々と御世話になりました。卒業後も空手を続けていたのですが、この三年ほど練習をさぼってしまいました。この20周年を機会に再び練習に励もうと思っています。

%：ある日突然、練習しに行くかも知れません。その時は相手して下さい。でも、いじめないでね私泣き虫だから。

∞：私の名前は「小泉美智雄」です。「小泉美智夫」ではありません。でも、近いうちに「夫」になるかも知れない！？

＜ 高橋 幸英 建築学科卒 ＞

◇：大和ハウス工業（株） 特建事業部 設計部一課

○：建築の設計（意匠）、企画提案

◎：特にありませんが、世の中の変化が激しいので

▲：何だかとても昔の事に思えます。

★：御無沙汰していますが、どうにか生きております。

%：好きなことを好きなだけやって毎日を楽しく過ごして下さい。

∞：笹沼先輩よりT E S I いただいたにも関わらず投稿が遅れて申し訳ありません。みなさん頑張って下さい。

【昭和58年度卒業】

＜ 小林 新一 工業化学科卒 ＞

◇：旭化成工業（株） モノマー製造部A N 製造課

○：アクリロニトル製造部門のスタッフとして働いています。

◎：まだ独身です。

▲：工陵祭の演武会、真剣白刃取りをやるつもりで刀を振りおろした所、ゴツンという確かな手ごたえが…会場にも刀が頭に当たった音が聞こえたらしい。安喰、痛かっただろうな。

★：最近せんぜんいっていませんが、元気で頑張っています。

%：目標をしっかりと持って頑張って下さい。

＜ 安喰 昇 工業化学科卒 ＞

◇：日立化成工業株式会社 生産技術部

○：画像処理装置の開発

◎：①：一般に騒がれているようにうちの会社でも不況&リストラで求人等どこ吹く風といっ

- たところ。②：30才過ぎても今だに独身ですが遊びたい気持ち半分、結婚したい気持ち半分といったところ。
- ▲：高専に入学し最初に思ったことは岩田先生と笹沼先輩の2人は、大変よく御指導して頂き、まるで今子供に○○○と命名している人の“子供と同じ名前”のような素晴らしい人でした。いや大変失礼しました“神様”的な人でした、の間違いです。
- ：同期の小林君早く結婚しないと寮から出されるぞー。
- ★：岩田先生しばらくお会いしていませんが、先生があの時四国に行かなければ僕の空手道人生はもっとすばらしいものになっていただろうと思うとちょっと残念です。
- %：黒帯になるときの10人まわしは、あとになると良き思い出となるので永遠に続けて下さい。又、きつい練習も強い忍耐力を養うために必要で、社会にでると役に立つて進んで辛いことをやるように！逃げてはダメ。
- ∞：今年の6月頃住所変更になるかもしれません。その時は引越し先の住所を連絡します。大変遅くなって申し訳ありませんでしたが宜しくお願ひします。

【昭和59年度卒業】

- ＜大堀 敏行 機械工学科卒＞
- ◇：（株）ブリヂストン タイヤ実験部実中試験室
- ：タイヤ性能試験 私は毎日ポルシェに乗っています。
- ◎：ブリヂストンのタイヤを皆さん買って下さい。
- ▲：学生時代の思い出と言うと酒と空手とオートバイしかなく、思い出深い出来事はあまりないが、やはり田島での合宿の夜の演芸会で、ひじでブロックを割って次の日から医者にしばらく通った事
- ：ご無沙汰しております。皆様方はいかがお過ごしでしょうか。私は空手とはもう縁を切りのんびりと“ますお”さん状態で暮らしています。
- ★：ご無沙汰しております。お体に気をつけて下さい。
- %：つらいときもあると思いますが、最後まで空手を続けて下さい。後で役に立つときがきっとあると思います。
- ∞：遅くなってすいません。

＜中山 尚之 建築学科卒＞

- ◇：鹿島建設（株）技術研究所 第三研究部
- ：鉄筋コンクリート構造物の耐震研究
- ◎：＜空手道部の皆様へ＞ 練習はつらく厳しいと思いますが、この様な経験は一生の宝になりますので全力でがんばって下さい。卒業までに2段獲得を目指し！
- ▲：＜もう絶対にやりたくない事＞ 人乗せ移動・合宿の朝おきぬけのマラソン・道着のパンツ脱がし。＜もう1度やってもいいこと＞ 先輩面して合宿に参加する事（特に女子短大との合同合宿時）・合宿朝食時の一一杯の牛乳
- ：町田さん、川田さん、またいっしょに飲みましょう。大堀君、パパの気分はいかがですか？
- ★：岩田先生、奥山先生御無沙汰しております。最近スポーツクラブに入り水泳を始めました。
- %：学生時代は自由な時間が多いためですが、この時間をむだにせず何か一つの事に熱中して下さ

い。後できっと役に立ちます。

∞：空手道部創立20周年おめでとうございます。私が卒業して10年もたったとは早いものです。

＜猪瀬 かおる 建築学科卒＞

◇：（株）L. A. U. 都市施設研究所 計画室

○：都市計画コンサルタントです。公共（役所などの）から委託される仕事なので、世間の不景気を後目に忙しい毎日…。小山駅前のまちづくりなどにも多少関わってます。（私は直接担当しませんが）

◎：一度“とらばーゆ”しているので現在の会社は6年目ですが、職場では「女王サマ」と呼ばれております。ホーッホッホッ…。高給優遇してくれる会社があれば、いつでも可です。高給優遇してくれる婿も同時募集中。ヨロシク！

▲：夏合宿の思い出 私はOB（1期生M主将）の乗用車（定員5名の車に6人乗って、なおかつ合宿用品を満載していたためタイヤは「ハ」の字状態）で会津田島へと向かっておりました。途中、今市あたりの市街地で信号待ちをしていたら派出所のおまわりさんと目があってしまいヤバイ！と思ったときにはもうダメでした。運転していたOBが呼ばれ、残された私たち1年生5人は車の中で途方にくれていました。しかし、しばらくして戻ってきたOBは、何もなかったかのように6人乗りのまま会津へと車を走らせたのです。なんと！その派出所には、空手道部のOBが勤務していたそうです。

★：現在の私があるのもすべて岩田先生、滝沢先生のおかげと思っております。（ちょっとだけ…）

%：合宿や演武会などの情報を隨時お届けいただいて…いつもいつもごくろー様です。せっかく葉書をもらってもほとんど参加できませんが、連絡してもらえるのはすごくうれしい！みなさん頑張ってください。（返送が遅れてスミマセン）

【昭和60年度卒業】

＜嶋崎 恵一 機械工学科卒＞

◇：（株）P F V、生産部生産技術課

○：図面、社内規格などの文書管理

◎：<仕事> 最初は技術職だったんだけど、近頃もっぱら事務職ばかりなんで技術屋として生きたいヨ～。

<嫁> アタックしていた彼女の結婚が決まった。（俺とじゃない）なぜなんダ～。

▲：某先輩が道場に来て言った。「この道場にはOBが来た時に着る道着もないんか？」私は早速なけなしの部費で道着を手配した。この後知ったのであるがこの先輩は酔っぱらって自分の道着を置き忘れていたのであった。

■：無くした道着は自分で買いましょう。

★：在学中は大変お世話になりました。私は、空手で無事卒業できたと思っています。私の取柄はこの勢いだけなんで、会社でもこれで乗り切っています。

%：練習はつらいばかりでいいことないと思うけど、社会にでるとこれがけっこう役に立ちます。やっぱり体が資本だ。

＜川田 五輪治 機械工学科卒＞

◇：小松製作所

○：海外事業

【昭和61年度卒業】

＜鈴木 克幸 建築学科卒＞

◇：山供建設株式会社

○：大工

◎：ド田舎の土地を貸して頂ける方求めます。（300坪以上）

▲：在学中に寮生活で、一コ下の松葉君は、運動公園にのぞきに行き、仕事に専念していた為、すわりしょんをしていました。（証人 鈴木他数名）

■：高橋先輩へ 最近先輩の彼女が郵便局のポスターに載っていますが、ずいぶん老けましたね。

%：黒川、湊、塩入先生には、十分ゴマをする事。

∞：将来、私は、田舎でのんびりと生活したいです。

【昭和62年度卒業】

＜塩沢 利法 機械工学科卒＞

◇：（株）東芝那須工場、材料部 製造技術担当

○：当工場は、X線・CT・超音波等の医用機器事業場で、その中で私は、切削・板金加工等を主とした製造技術の全般に従事しています。

▲：1年の合宿の時に高橋大先輩のご指導のもと、女性陣の目前で“ゾウさん”をやったことかな！？ 鈴木先輩を頭に週末、運動公園へ見学（ノゾキ）にいったこと。（空手の練習も兼ねて？）

■：同期の皆様へ……おれとか酒沢を見習って早く結婚しろ！特に一番危ない英二！！

★：お元気ですか？たまには学校の方にも伺いたいと思います。

%：1に練習、2に練習。3・4がなくて5におんな。後で悔いが残らない様勉強もする事。（自分の反省もこめて）

＜松葉 敏幸 電気学科卒＞

◇：NTT

○：光ファイバを用いた各種装置の接続実験

▲：私は仕事中に手を抜くのが上手くて「俺はサボリの天才だ」などと思っています。これも合宿の練習で磨きぬかれた技の一つです（冗談）

■：同期の英二君。M科は皆、年貢を納めてしまったので次は電気科だ。頑張っているかい？ 磯辺は元気かな？

★：御無沙汰しております。お元気でしょうか。もう、20周年とは。月日の経つのは早いものです。

%：自分が学生の時に10周年の式典がありました。今度は20周年という事で学生の皆さんには大変だと思いますが頑張ってください。

≪ 中村 英二 電気工学科卒 ≫

- ◇：日立デバイスエンジニアリング（株） 第2コンピュータ部
○：遺伝子の電気床動によって得られた画像を解折するソフトウェアの研究・開発をおこなっている。マッキントッシュ用のソフトウェアです。
◎：うちの会社には、来ない方がいいと思います。
▲：私が、5年間、空手道部を続けられた理由は、ただ「やめたい」と言えなかったからです。
■：たいへんごぶさたしております。
★：たまには、学校のほうに行こうと思います。その時は、よろしくお願ひします。
%：はじめまして。がんばって5年まで空手をつづけて下さい。後で良かったと思うことがあります。
∞：たまには、合宿にもいってみようかな。

≪ 磯部 登美夫 建築学科卒 ≫

- ◇：S U Z U K I 株式会社
○：自動車部品生産工場での生産技術
▲：合宿でのきつい練習はとてもいやだったが、今では心に残る良い思い出となっている。特に朝早い練習は体にこたえた。練習後の朝飯のうまかったこと…。
■：塩沢連絡くれ～。彼女できたか？
★：熱心な御指導ありがとうございました。空手の精神はこれからも心に持ちつづけていきたいです。
%：今は耐えてくれ。
∞：合宿に参加できなくて申し訳ない。

【平成元年度卒業】

≪ 小杉 博展 電子制御工学科卒 ≫

- ◇：（株）東芝 電波応用設計部設計第一担当
○：マイコンを応用した電子回路の設計。
◎：何も望んでいない。
★：お元気ですか。私は元気でやっております。
%：在学中、死ぬほどつらい部活だったけど、後々必ず強い自信となって自分に返ってくるときがありますので、とにかく5年間続けて下さい。
∞：今、欲しいものは自分への自信と少しのお金です。

≪ 丸田 篤 電気工学科卒 ≫

- ◇：株式会社リクルート 採用戦略部 川崎営業所
○：新卒向け就職情報誌の法人営業、企業の採用活動サポート
◎：お近くの方、ひまがあれば連絡ください。色々話をしましょう。
▲：一番の思い出は、夏休みの合同合宿ですね。“あのつらい合宿を乗り越えられたんだ”という自信になりました。今も時々思いおこしては元気をとり戻していますよ。
■：またみんなで集まって飲みたいですね。

★：元気でやっています。
%：気持ちよくつづけられるように心掛けよう。
∞：H. 6年1月1日、宇都宮のデニーズで小磯先輩と偶然会ってしまいました。懐かしくて嬉しかった。話ができなかったのが残念ですが、ぜひ今度ゆっくり会えるのを楽しみにしています。皆さんもお元気で。

＜水岸 正行 電子制御工学科卒＞

◇：電気興業（株） 電気通信事業部電気通信開発部開発二課
○：自動車、携帯電話用基地局アンテナ装置の開発、製造、調整から梱包までの一連をダーとやっている。
◎：今一番望むことは、学生時代の“体重”ダー。卒業後、空手をやめてから15kgも太った。誰かやせ方教えてくれー。
▲：私の思い出は、合宿に出なかったことのみです。5年間でフル出場は3年の時だけで、あとはまるっきり出ないか途中で帰りました。それから、田中先生(あの有名な)に“金的”をケラれてノビた事ぐらい。
■：同期の機械工学科卒の小林クン、連絡先が分からぬので教えて下さい。先輩の電気工学科の松葉さん、先日、仕事先でお会いしてビックリしました。
★：いろいろとお世話になりまして感謝しております。
%：合宿はできるだけ参加しよう。

＜長谷川 聰子 電子制御工学科卒＞

◇：家事手伝い
○：H2.4～H5.3（株）東芝に籍を置いていましたが、退職し、現在“家事手伝い”です。というのは、H6.4.10.結婚します。春に入部した、まだ緊張の残る新入部員が、その苦しさに耐えられず続々辞めていく夏の合宿。その中で一番「今日こそは逃げ出してやるー」と思っていたのは部員の誰でもない、マネージャーでありました。朝から晩まで、それこそ夢の中までメシたきの毎日。私はここで忍耐ということを知りました。

【平成2年度卒業】

＜中村 昭人 工業化学工学科卒＞

◇：原子力技術株式会社
○：動力炉、核燃料開発事業団内のガラス固化技術開発施設の試運転をやっています。
▲：夏の合宿の時、同期2人とポスターカラーで絵をかいた“ケツ”を見せる芸をやったこと。
■：福田、山田、元気か！久々に飲みにいこうぜ。
★：お体を大切にして下さい。
%：スピード、力、練習量、何でもいいですから「人より頑張ったぜ！」と言えるものを5年間でつくって下さい。

【平成3年度卒業】

≪ 高正 権雄 工業化学科卒 ≫

◇：日立化成工業株式会社 開発部

○：車両用の内装材開発 例：東海道新幹線「のぞみ」の内装材として実績有り。

◎：（ピチピチの）若い女性を紹介して下さい。10～20代後半まで可。

▲：男くさい道場であった。もっと女の子が多いとうれしい。

★：しばらく仕事が忙しく学校の方へ行っておりませんが、時間を見つけては遊びに行くつもりです。

%：空手を続けることにより新しい視野ができるので、最後まで頑張ってもらいたい。途中でやめるな!!

≪ 大野 順義 建築学科卒 ≫

◇：G建築研究所

○：建築

∞：おそらくなってごめんなさい。

≪ 古性 淑子 工業化学科卒 ≫

◇：千葉大学 工学部画像工学科

○：あれだけ進級が危なかった私は何故か進学してまだ学生をしています。今は卒業研究に追われ、忙しい日々を過ごしています。来年は石川県にある国立の大学院大学の情報科学研究所に進学が決まりました。

◎：進学にかかる費用と、時間がもっと取れる事を一番希望しているかな～。

▲：合宿の時のご飯作りは忘れられません。朝毎日起きられなくて迷惑をかけてました。合宿の食事の支度をしてたおかげで未だ大量生産の癖が抜けなくて困っています。

■：何故か大量の食事を作ると町田先輩と川田先輩を思い出します。それと某S大先輩、有馬記念の御連絡はお早めに（笑）。

★：お変わり有りませんか？卒業後合宿の食事を作りに行かなくてごめんなさい。

%：頑張ってくださいね。特にマネージャーさん達。

∞：何故か今この20年誌の文章の校正をしてるんだよな…。（偏に私こと滝沢の責任です）

【平成4年度卒業】

≪ 森平 宏 電気工学科卒 ≫

◇：NTT千葉ネットワークセンター 設備部電送担当

○：市外（県外）通話の際に使用される電送装置の保守・運用。

▲：部長としての最初の仕事が合津田島の合宿所のトイレ掃除（宮前のゲロ掃除）だったこと。

■：一日一善。

★：お体を大切に。

%：仲間を大切に。

∞：道場入って右側の棚の中は注意してください。私が片づけていた際にヘビと遭遇した経験があります。

≪ 矢島 健一 電気工学科卒 ≫

◇：電気通信大学 電子情報学科

○：学術研究

◎：今年も就職が厳しいそうで、こまつたこまつた。大学院にでも行こうかしら。

▲：合宿のつらさは身にしみこんでますね。今年もスキーに行きましたが、途中で会津田島を通るんです。思わず体がこわっぱってしまうのは3つ子の魂……というやつでしょうか。

■：同期の岩館に。わたしとの待ち合わせをすっぽかして、2時間以上も寒風の中で待たせておいて、その間にトランプをしていた岩館に「約束は守るようにしましょう」

★：全く顔も出さなくてすみません。

%：今年は変な気候でしたが風邪なんかひいていないでしょうか。健康第一です。

∞：小山も遠かったけれども、調布も遠いんだ。今日は雪がだいぶ降っているけど朝の電車は止まらないかな？切手が値上がりしたんだね。早く出しておけば良かった。貴社の記者は汽車で帰社した（これは日本語変換の賢さ check です）ATOK 8 はいいよ。

≪ 岩館 満雄 工業化学科卒 ≫

◇：東京農工大学工学部 物質生物工学科

○：学生です。毎日授業に追われてます。来年から研究室に入ります。卒研です。NMR（核磁気共鳴）によるタンパク質の構造解析による研究が主なものです。…来年は卒業です。大学院に進学しようと思っています。

▲：職短でやった岩田先生の稽古が思い出されます。あと、つらかったけど夏の合宿。つらかった！中村先輩、高正先輩、especially 笹沼先輩の稽古もなかなかつらかった。入部当時の立ち方もつらかった。と、思い出すのはつらいことばかり。ですが、楽しいこともあったなあ。あと寒稽古。これは寒い。

■：笹沼さんへ。在学当時から言われてましたけども、この記念誌の作製に参加できなくてすみません。

★：岩田先生へ。“継続だけが力なり”のお言葉を頂き、大学でも空手道部へ入部しました。流派は、松とう会という船越先生のお弟子さん（江上先生）が始めたものだそうで白帯から始めて現在3級です。初めはとまどいもありましたが、これからは、流派が変わっても基本を大事に空手を見つめて行きたいです。

%：大変だと思いますが、がんばって立派な記念誌を作って下さい。恐らく高野が現在部長だとは思いますが、近々会える時がくるまで精心してください。

の如きは、實に「政治」の如きを「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。」

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。」

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。

部員からの一言

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。

（前略）「政治」の如きは、實に「政治」の如きと見なすには、何處か疑問がある。

＜ 5年 建築学科 高野 智秀 ＞

入部して、早4年が過ぎました。入部当初の考え方の單なる強い空手ではなく、心、技、体が一体化する調和のとれた空手を目指しています。

1、2年生の時には、空手とは何なのかということも考えられず、ただがむしゃらに技を習得しようとしていました。先輩達に追いつきたい、後輩達に追いつかれてたくない、そう心の中で思い、毎日疲れて嫌になるほど練習、自主練習の繰り返しでした。3年生ぐらいの時でしょうか、ふと気がつくと機械のように空手をやる自分に気付きました。同時に自己逃避できるオートバイという存在も知りました。新しい存在は不思議なもので、何もかもが新鮮で楽しい時間でした。1年近く過ぎ再びふと気が付いたとき、今度は何の取柄の無いただのバイク乗りになっていることに気付き、自己逃避していた自分を本当に悔しく思いました。

練習を徐々に再開しましたが、稽古をしていなかった体は「立ち方」さえ辛く感じさせられました。この時、空手の一つ一つの動きが体を活発にさせ健康にしているのだと思い、空手を長年続けることの凄さを知りました。

最近は初心に戻りもう一度がむしゃらな練習に励んでみたい、そんな細やかな心を持ち、練習に臨んでいます。私が1年の時、5年生の先輩がやけに大人に見えたことを覚えています。そして今、私が5年生になり、後輩達に見られても恥ずかしくない人間、そして社会人となるように心がけています。

空手生活の中、楽しかった事、辛かった事、残念だった事など心に残ることばかり、そして数多くの事を学んでいます。空手で学んだ精神力と人間的な心をもち、生涯自分の夢、目的を持ち続けて生きていければいいと思っています。

＜ 5年 建築学科 横山 恵一 ＞

動機はたいしたものではなかったと思う。高専に入って何かやらなくてはという気持ちと現部長の高野のしつこい程の誘いで1年生の5月、空手道部に入部した。しかしあまりの練習の苦しさと、片道2時間の通学のつらさにたった一週間で挫折してしまい、あっけなく退部した。

学校の生活によく慣れた10月頃、再び入部したのは、やっぱり心のどこかに「強くなりたい」という気持ちがあったことと、中学時代、学校一練習のきついバスケットボール部で3年間耐えぬいた経験から、空手道部の練習にもなんとか耐えられるのではないかと思ったからだった。つらい練習だったが、先輩方の励ましと自分のやる気とでなんとかがんばれた。2年生までは真面目で参加率も良かった。

3年生のはじめで突然ひざをこわし一時休部。負担をかけるとすぐに再発するひざの痛みと、自分に甘くなってきたことが次第に道場から足を遠のかせた。5年生になり卒研の忙しさでなかなか練習に参加できない今では非常に後悔している。

苦しい練習や合宿に耐えたことも、5年間の高専生活での最大の思い出となるだろう。良かったことも悪かったこともこれから的人生においてプラスとなるように努力したい。

＜ 5年 建築学科 岡部 久美子 ＞

空手道部での思い出はつらかった思い出が多いだけに、今までの高専生活の中で一番印象深く残っているような気がします。

でも、つらかった思い出だけではありません。たくさんの先輩方や後輩達との出逢いは私に

とってとても新鮮なものであり、よい思い出です。

残り少ない高専生活を送っている今、しみじみと思う今日この頃です。

＜ 4年 建築学科 神田 庄吾 ＞

空手を始めてから早3年と数カ月が過ぎた。思えば辛い練習の連続ではあったが、充実していた日々だった。

一年の頃は特に練習がつらく感じられ、先輩達についていくのがやっとだった。立ち方の練習ばかりやらされたのをよく覚えている。しかし空手をやめようと思ったことは少しもなかった。誰よりも早く道場に来ていたし、誰よりも遅くまで道場に残っていたような気がする。残って練習していると、5年生の先輩がマンツーマンで指導してくれて、それがとても嬉しかった。日に日に自分が強くなっていく実感があった。それは、ただ強くなりたいという目標のために空手道部に入った自分にとって、この上ない喜びであった。それにも増して、同期の者達に負けたくないという競争心が自分のやる気に拍車をかけた。だから、学校にも勉強のためではなく、空手のためにきているようなものだった。しかし、6人余りいた当時の1年生も、一人やめ二人やめ現在では、自分も含め二人のみである。一緒に汗を流して頑張った仲間が辞めていくのは何にもまして辛い事であるが、その中でも特に、剛柔流をやっていた丁君が辞めたときは何か、心の中にぽっかり穴が空いた気がしたのを覚えている。

上級生となった現在、練習に遅れたり、練習が終わったらさっさと帰ってしまう一年生を見ると、こいつら本当に空手が好きなのか、と思う反面、空手の面白さを教えてやれない自分に責任を感じる時もある。高専で空手ができるのもあと一年と少しであるが、その中で一人でも多くの空手バカを製造できればと思っている。でも勉強はちゃんとしろよ。

＜ 4年 機械工学科 武井 清明 ＞

僕が空手道部に入部したのは、なんとなく「やってみよう」と言う気持から入部しました。こんなあいまいな気持ちで入部したのに、よく続いたものだと今では自分で自分に感心してしまいます。思えば4年前はつらい思い出しかありません。毎日の練習はつらく、家に帰れば筋肉痛に悩まされ、足の裏の皮はむけ、足の親指はひび割れてしまう毎日、そんな日々でした。中でも夏の合宿のつらさは並ではありません。でも僕はほんの少しだけ楽しみにしている部分があります。95%くるのがいやでたまりませんが、5%ぐらいは夏の合宿で気の合う仲間といっしょに“苦しむ”ことが結構楽しかったりするのです。この5%の気持ちのおかげで僕は部活が続けて来れたと思います。空手は本来個人技ですが、チームワークというか組織力と言うのも部活動としては大事なものではないかと思います。これからも小山高専空手道部という組織の中で自分自身の、個人個人の力を伸ばして行けたらいいなと思います。

＜ 3年 機械工学科 山本 健作 ＞

最近、自分が「空手道」に対して思うことは、何にしてもまず、「自分自身が主体」であるということです。

人は皆「強くなりたい」という願望があると思いますが、人間の本当の強さとは、「自分に打ち勝つ強さ」だと考えています。それはまた、空手を練習していく上で、とても重要なことだと思います。また、その練習も何も考えずただやっているだけでは空手は上達しません。

「上手くなるんだ」という積極的な気持ちを持っていなければ技術の向上はないと思います。実際にそういう意志をもって練習に励んだときはとても集中することができ、練習をやり終えた後にも本当に充実感が得られるような気がします。

高専での生活も折り返し点に差し掛かりましたが、これからも有意義な毎日を送るためにも空手を続けて行きたいと思っています。

＜ 3年 電気工学科 沢田 利幸 ＞

自分が空手道部に何故入ったのかと聞かれるといつも困ってしまう。なぜ入ったのだろう。「自分の精神力を鍛え、根性をつけるため」と言ったならば高校一年生の考えとしては嘘になる。空手に限らず、部活を選ぶというのは単なるちょっとしたきっかけに過ぎないと思う。しかしその「ちょっとしたきっかけ」が、吉とでるか凶とでるかは続けてみなければ分からない。自分は1年生の前期、前屈立ち、後屈立ちをしながら額に汗がにじみでているのを感じ、凶だと何度も思い、また夏休みに入れば言わずと知れた合宿で汗が出尽くしひからびた自分を感じ「大凶かもしれない、やめようかな」などと思っている自分を見た。しかしいつの間にか大凶が吉に変わる日もある。5日に一回……。いや一ヵ月に一回ぐらいは「いい汗かいたな」と思う日もある。自分自身が目指している部活というのはそういう「吉」と思う事のできる部活で、3年という後輩を引っ張っていく学年となり「みんなが一緒になって一丸となって練習していく」部活を作り上げていきたいという目標を持っている。目上の方々がこれを読んだなら「何を言っているんだコイツは」と思うかもしれないけれど、合宿を否定するわけでもなく、昔からの練習を非難するわけでもなく、ただ楽なだけの部活も望まない。部員全員が一丸となり一緒に向上していく、そんな部活にしていきたいと、ナマイキな三年坊主は思いました。

＜ 3年 電気工学科 中野 耕多 ＞

小山高専に入学して、一ヶ月近くが過ぎた。学校生活にもなれ、クラスメイトとも、うちとけ合ってきた時に、1つの問題が浮かび上がった。“何のクラブに入るか”である。一通り見てまわった後考えた。「サッカーや、バスケやテニス、バレーみたいな、よくある部活に入つても、中学の時からやってる奴とかいるしなあ、新入部員みんな初めてっていう部活ないかなあ」、そう思って決めたのが、空手道部だった。

入部してしばらくたち、学校全体が普段のペースにもどってくると、自分の考えが大きな間違いだったのかもしれないということに気が付きだした。他の部は、それほど厳しい練習をしているわけではない。中には、全く遊びでやっているとしか思えないような所もある。しかし、空手道部は違っていた。毎日、遅くまで練習し、しんどい思いをしていると、先輩達に今年の1年は楽な方だと言われ、呆然とした。一瞬「やめちまうか」の思いがよぎるが、せっかく入ったんだし、いきなりやめるのも何だから1年くらいやってみるか……。それで2年になり、同じことを考えたまま3年になった。

相変わらず練習は厳しいし、全く上達したとは思えない。でも、今だに空手道部に籍をおいている。自分でも何故だかはわからない。不思議なものである。

＜ 3年 電子制御工学科 宮前 久美代 ＞

まだ、この部に入って3年目の私から見ると、20年という年月は想像がつきませんが、この長い年月の間、常に先輩方が私たちと同じ部員として空手道に打ち込んで、そして今の年代に受け継がれていると思うと、とても深い感動を覚えます。私はもともと運動が得意な方ではないのですが、始めから何も努力しないで決めつけるのは嫌だと思っていました。高専に入学して、新しいことに挑戦してみたい気持ちもあって、身分不相応にもこの空手道部の一員になつたわけなのです。

1年の入部したての頃は道着にも不慣れで、気合いを出すのが恥ずかしかったり、女であることに甘えてしまったりと（今でも結構甘えていると思いますが）、何かと真剣味が欠けていた中途半端な時期がありました。

それから更正して真面目に打ち込もうという気になったのは、自分に対する怒りやあきれ、他の部員に差をつけられたくないというあせりもありましたが、何よりも効いたのは先輩達のうまく強くなろうと努力する姿でした。何もしないで上達するわけがない。あんなにたくましい先輩達だって、みんな最初は初心者だったんだから、私も真剣に頑張れば何とかなるんじやないか、と思い始めるようになりました。だから、1年はちょっと努力不足で終わってしまったけど、これからはしっかり励みたいと決心しました。

2年になってから以前にも増して練習量が増え、明日は絶対来るもんかと思う毎日でした。しかし放課後の4時を過ぎると、足は自然に道場へ向かってしまい、今日も耐え抜いてみせると気合いを入れたのを今でもはっきり覚えています。そうして毎日練習に明け暮れて、そんな私がその年残したものは、胸をはって言える結果を1つも出せなかつたという情けないものでした。穴があったら入りたい心境の中で、ただ練習に毎日出て人に教わっているだけでは、何も進歩しないと思いました。これまでの私は自己満足で終わっていたのです。

やっぱり、真剣にやっていくからには何か目標を立てねば。気付くのが遅すぎたようなような気もしますが、そんな決心を胸の内に秘めながら3年目がスタートしました。

手を抜いたときもあるし、（えっ！いつもだって？？？）先輩にびしっとしかられたときはくやしいのとつらいのとで泣きそうになりましたが自分にも他人にも負けずに、これまでの努力を無駄にしないようにがんばっていきたいと思います。

＜ 3年 物質工学科 増田 和代 ＞

私が空手道部に入部しようと思ったのは、中学までは吹奏楽部に所属していましたが、体育会系でやりがいのある部活にはいりたっかたからです。そんな中、新入生歓迎会の部活紹介で、瓦や、ブロックを割っている先輩方のかっこよさに感動して入部しました。

実際入部してみると、私にとっては地獄のような毎日でした。最初は立ち方をずっとやって足が棒になり、膝が“笑っている”状態が毎日つづきました。また、マラソンがとても苦痛に感じました。小学5年生から空手を習っていますが、週1日、2時間の練習なので、こんなにつらいとは思っても見ませんでした。

更に、今までの人生の中で一番苦痛に感じたのが1年生の時の夏期合宿でした。朝5時30分に起床し、ジャリ道をマラソンで往復し、帰ってきたらすぐに朝の練習を8時過ぎまで。朝の練習の最後にやった馬跳びで足の感覚がなくなったのが印象にのこっています。午後の練習も巻わら、マラソン、そして午後の練習が2時間ほどありました。初めて巻わらを突

いたとき、無我夢中で突きました。そのせいか、皮がむけた時「何故こんなことをやるんだろう」と思いました。

2日目の朝の練習、全身に力が入らなくなって、足には激痛が走り、立っているのがやっとでした。とその瞬間倒れてしまいそのまま病院へと運ばれました。この時ばかりは自分の力の無さに悔しい思いで頭がいっぱいでした。結局三日間しか出られなかった合宿。もうやめたいと思ったつかの間、吹奏楽部に入らないかとの声がかかり、合奏日以外は空手の方にてて両立しようと決意しました。しかし、合奏日以外の日も吹奏楽の方に出て、空手部から足が遠のいていきました。この時の心境は誰にも話してなかったので、後から怒られるかも……。

このまますぐ行くとみんな中途半端になってしまふと実感させられたのは、3年になつてからの昇級審査と、大会からです。昇級審査を受けたとき、本来なら初段も受けるはずだったのですが、練習の足りなさに次回に持ち越し。大会もストレート負けと情けない結果に終わりました。10月、11月と千葉県（地元）の大会があるので、またもくやしい思いをしないように今は空手一本に絞って頑張りたいと思います。またストレート負けでは自分にも部の活気にもマイナスになってしまふので……。

いま、自分の中にある最大イベントは、12月にある昇級審査です。6月に受けられなかつた屈辱を晴らすためにも、練習に練習を重ね、人間的にも成長したいと思います。その為には先生方、先輩方のお力もお借りしなければなりませんが、よろしくお願ひ致します。

＜2年 電子制御工学科 高橋 伴嘉＞

少し茶色がかった白い道着をきた人が、なにやら黒板に向かっている。少し近づいてみると、そこには、「空手道部」と書かれている。そして、彼は僕にこう言った。「入部希望者？」「はい。」なんてことを言ってしまったんだ。その約一ヶ月後に後悔することになるとは、少しも思わず、僕の返事は0.1秒もかからず、たったの2文字で終わった。次に彼は、「まあ入れよ。練習一通り見ていくって。」と言った。この彼こそが、神田先輩だった。そして僕が空手道部の中で一番最初に覚えた先輩の名前も神田先輩だった。

雨が降っている。そして妙な光景がそこにあった。入部してから一ヶ月くらいのその日、僕は職短での練習が無いことを知り、早速道場へ引き返した。するとそこでは少し顔を歪めた石井くんと、「ちょっと腰が高い。」と石井君に言っている神田先輩が前屈立ちをしていた。僕もそこに加わり、5分くらい経過した。普段の立ち方の練習だったら10分位なのになあと思った。でも時計の針が12に来ればちょうどきりがいいから多分あと3分くらいやつたら終わるだろうと楽観的に思った。甘かった！それから20分が経過し、「何で今俺はこうして空手道部に入り、こんなにつらいことをしているのだろう？」と思い始めた。それから後は、早く終わって欲しいということしか頭になかった。そして、神田先輩の「なおって。」という声もかかる気配もなく、しばらくその状態が続いた。僕は結局この日50分間前屈立ちをしていた。「もう空手道部やめちゃいたいな。」と思う15の初夏の出来事だった。

神田先輩がおもむろに、演武会で使うドスを取り出して僕に言った。「刺しちゃるけんの！」渋い！僕は空手道部に入って一番感動したのはこの言葉だった。もはや日本でこんなに渋いセリフを言えるのは菅原文太と神田先輩くらいしか存在しないだろう、と思う15の秋の出来事だった。

何だ“かんだ”言っても空手道部は良い部活だと思う。みんないい先輩達ばかりだ。みんな

が仲良くて結構楽しい。これからも空手道部の一員でありたいと思う16の今日この頃です。

＜2年 建築学科 石井 大介＞

僕は、この1年間いろいろな事をしてきた。楽しかったこともあるし、つらかったこともあったと思う。しかし、それを具体的に思い出してみるとうまく浮かんでこない。いちばん印象的だったことは、夏休みに行った会津での合宿だった。休み前から先輩につらいとか、死ぬとか言われていたのでどんなものかと思っていたら、実にそのとおりで合宿2日目からは地獄にいるかのようだった。環境的には、まわりには森や川やそういう自然物ばかりだったのでとてもいいところだと思った。しかし、そういう環境に目を向けることなく練習は続いた。練習をしているというよりも修行をしているような気分だった。練習内容は、朝5時30分に起きて長い長い道のりを走り、疲れた体を休めることもなく体育館で基本を始めるというものだった。中段直突き200本以上やったり、逆突きを左右で500本くらいやるのはとても人間わざとは思えなかつたが、僕は1年生が一番後ろなのをいいことにうまく手をぬいていたようなことを覚えている。その後は形をさらりとやってのけた。1年の僕はだいたい食事の用意のために形は2日くらいしかやらなかつたと思う。その後食事を食べて3時まで休み、また練習が始まる。マキワラを150本くらいやってまたあの長い道のりを走り、今度は移動が始まる。これは本当につらかった。特に人乗せをやつたとき僕は何度も倒れそうになつたような気がする。しかし、「今さえ乗りこえれば」などとかっこいいことを考えて、僕はそれを乗りこえた。移動の次には組手をやつた。これはよく覚えていない。いちばん印象的なのは最後の日の打ち上げだった。僕は少し恐かったことを覚えている。それはうまく言うことができないので言わないが、あんなに恐いことがまた何回あるのかなと思うと、恐くてたまらない。しかし、あのスリルを味わいたいような気もする。結局、合宿はつらく悲しいものかも知れないが、それが終わると、とても楽しく幸せなものなのである。　押忍！！

＜1年 機械工学科 萩原 浩一＞

私にとって空手とは、心と体を鍛えるものです。私が物心つく前から、空手は私にとって身近な物でした。最初は、人からやらされているという感じでしたが、空手というものが体に馴染んでくると、とても楽しいものになってきました。高校受験で一時、空手から遠ざかってしましましたが、またこうして高専で空手ができる事はうれしいです。

空手をやって強くなりたいという気持ちもありますが、毎日の練習を欠かさずすることが一番だと思います。

＜1年 建築学科 古橋 勝仁＞

僕が、小山工業高等専門学校空手道部に入部した動機は、もう一度空手をやりたかったからと、他に入部したいと思う部活がなかったからです。必ずしも組手が強いわけでもなく、形がうまいわけでもない初心者同然の僕ですが、これから一生懸命練習をして、少しづつ強くなり、うまくなつていきたいです。

今の目標は、組手で1勝を早くとり形をできるだけ多く覚えたいです。この目標を達成するために、毎日練習をして体を鍛え、心も鍛えて心身ともに鍛えられた人間になりたいです。

今後の目標は、組手・形ともに個人でベスト16以上で団体でベスト8以上に入り、全国に小

山高専の名を蟲かせたいと思います。あくまでも目標です。目標を達成するためにいろいろとガンバッテいきたいです。

＜1年 建築学科 加藤 猛仁＞

僕は小学校のころに、空手をやっていて中途半端でやめてしまったので、もう一度、きちんとやり直したいと思ったので入部しました。やっていた流派と全然違う流派なので、形なども初心者同然でした。何ヵ月か経った今では、形も少しずつ覚えてきました。もっといろいろ覚えて、はやすく上達したいです。

今、一番の目標は、はやすく試合に出て、優勝と欲張りたいけど、せいぜいベスト8ぐらいには入りたいです。そのためには、1日、1日の練習を大切にしていきたいと思います。あと、インターハイに出てみたいです。

＜1年 物質工学科 小倉 良昭＞

僕は、小山高専に入学して、部活動は何かやろうとは決めていました。しかし、実際何をやるかは決まっておらず、いろいろと考えました。僕は、中学生の時は卓球をやっていて、けっこ練習もしたので、続けようかなと考えたのですが、何となくあきてしまったのでやめてしまい、サッカー、バスケット、ラグビーなど、いろいろと考えたのですが、やはりこれといったものが思い付かず、数少ない「市貝中」出身の人を探すと、空手道部に、昔からよく知っている人がいたので、見学にでも行くかということになり、行ってみると一緒に練習までさせてくれたので、やってみるかなと思い、空手道部に入部しました。

そしていざ入部してみると、一年生で空手をやったことのない人は、僕だけでした。だからがんばって早く他の人におつき、おいこしたいと思います。さらに僕は、中学生の時は、学校の長距離のレベルが高かったので、自然に自分も速くなっていくというような感じだったので、ランニングはまだいいのですが、体はとてもかたく、いくら家で柔軟体操をしても、そうすぐには柔らかくはならないので、練習している時は柔軟が一番きついです。

また、空手道部には合宿があるらしく、聞いた話によると、ものすごく辛く、苦しいということで、合宿をやるとけっこう退部者がでてしまうということらしいので、今の練習で辛いなどとは言ってられないと思います。

まだ入部したばかりでちょっと気が早いと思いますが、空手道部はインターハイ予選に出られるということなので、できれば一回でもインターハイに出られたらいいなと思っているのですが、ちょっと難しいと思うので、あきらめるわけではないのですが、一試合一試合全力を出し切って、悔いの残らないような試合ができればいいなと思います。

最後になりましたが、僕の目標というと、僕の場合はまだ初心者なので、何もない状態というか、ゼロからの出発なので、とにかく最初は他の人に追いついて、もしできたら他の学校の人や、高専の先輩などに追いついて、これもできればですが、段をとってインターハイにでたいと思います。だからまずは他の人におつくという目標が達成できるように、毎日の練習に励みたいと思います。

合宿の思い出



だるいよな！これから合宿



腰を落とせ！



昭和58年度（1983年度）夏合宿（小山高専にて）



昭和58年度（1983年度）夏合宿
(小山高専にて)



昭和60年度（1985年度）夏合宿（小山高専にて）



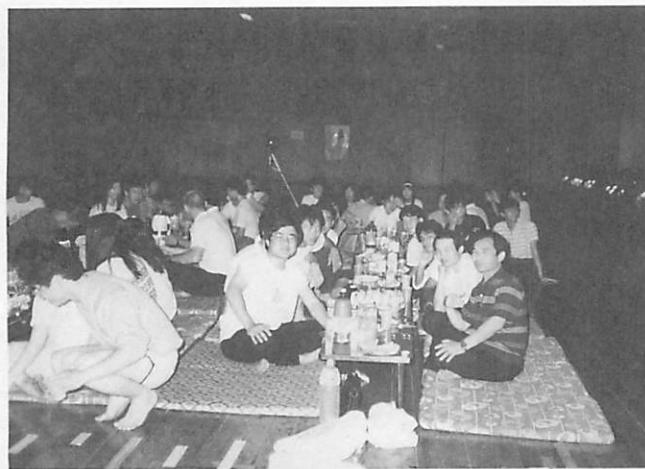
昭和59年度（1984年度）夏合宿
(小山高専にて)



昭和61年度（1986年度）夏合宿（会津田島町にて）



昭和62年度（1987年度）夏合宿（会津田島町にて）



昭和63年度（1988年度）夏合宿（会津田島町にて）

打ち上げ演芸会（次の出しものは？）



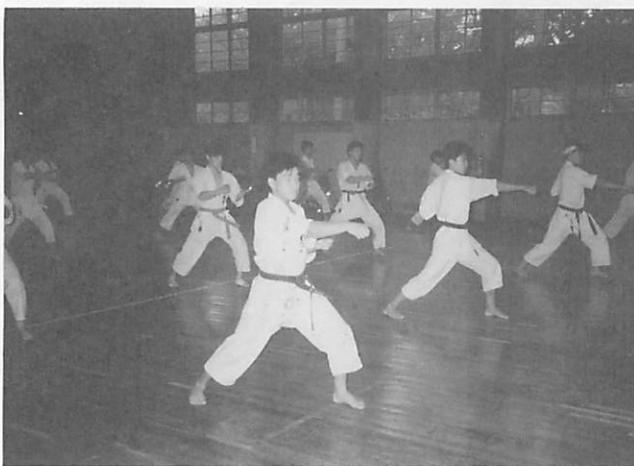
“止まらぬ男の一撃”
平成元年度（1989年度）夏合宿
(会津田島町にて)

（アコロ横田柔会）寄合夏（翌年8月11日）第5回世界

平成 2 年度（1990年度）
夏合宿（会津田島町にて）



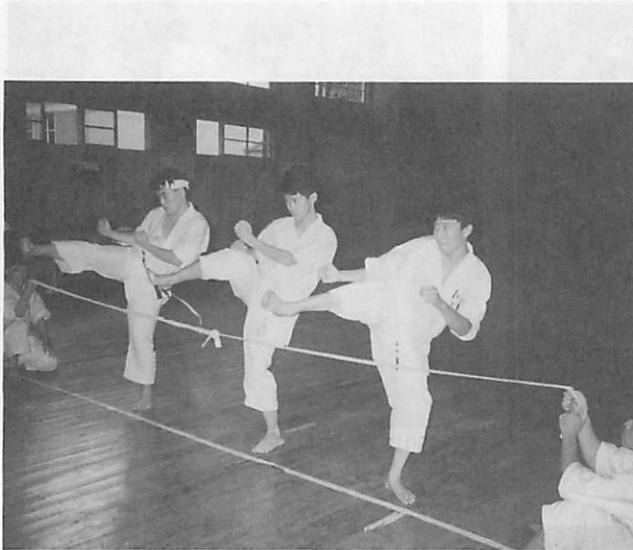
（アコロ横田柔会）寄合夏（翌年8月11日）第5回世界



平成 3 年度（1991年度）夏合宿
(会津田島町にて) “まだ元気！”

（アコロ横田柔会）寄合夏（翌年8月11日）第5回世界
（アコロ横田柔会）会員登録

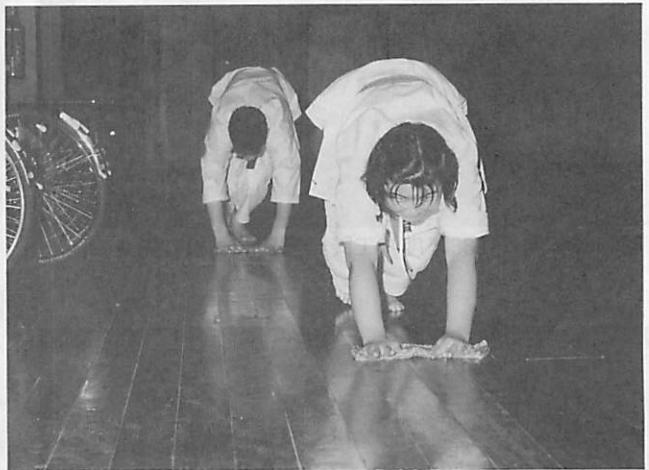
出で思の祭刻工



平成4年度（1992年度）夏合宿
(会津田島町にて)

会始前祭刻工（第2回6月）主手に山野

“家では仲々”



会始前祭刻工（第2回6月）主手に山野
(第2回) 鹿島町の豊田川

会始前祭刻工（第3回6月）主手に山野

工陵祭の思い出



昭和59年度（1984年度）工陵祭演武会



昭和59年度（1984年度）工陵祭演武会



昭和63年度（1988年度）工陵祭演武会（桧森先輩）



昭和59年度（1984年度）工陵祭演武会
川田先輩の逆岩鶴（9期）



昭和60年度（1985年度）工陵祭演武会



平成3年度（1991年度）工陵祭演武会



昭和58年度（1983年度）工陵祭演武会



平成3年度（1991年度）工陵祭演武会
(橋本先輩の十手)



平成3年度（1991年度）工陵祭演武会



平成5年度（1993年度）工陵祭演武会

大会の思い出



第11回関東信越地区空手道親善試合
(昭和62年7月、東京高専にて)
桧森選手(個人組手、優勝)足払

会場新潟県立工業高等学校

81.7.19

第13回関東信越地区空手道親善試合
(平成元年7月、小山高専にて)
辛うじてV13



第13回関東信越地区空手道親善試合
(平成元年7月、小山高専にて)
小林選手(個人型、優勝)の華麗な演技



会場新潟県立工業高等学校

在りし日の思い出



紅2点（飯塚・長谷川マネージャー）14期



先輩も大変です！
(出演) 笹沼先輩、古性・中村マネージャー



マネージャー揃い踏み
飯塚・長谷川（14期）
古性（16期）



ちょっとポーズ
長谷川マネージャー



ちょっとポーズ



1985年（昭和60年度）夏合宿



高専大会（東京高専にて） 左上より、
嶋崎・川田・小林・大越・高橋・佐野・
石岡・小泉・中山先輩



顧問石神先生（夏合宿、小山高専にて）



余興（昭和58年度夏合宿にて）



新人部員挨拶（昭和58年度、夏合宿、小山高専にて）



平成2年度、夏合宿（今市市にて）



新入部員歓迎会（昭和62年、5月、思川畔にて）



平成元年、新入部員と小杉先輩



新入部員歓迎会（昭和62年5月）



ファミテックにて（平成2年度、夏合宿、今市市にて）



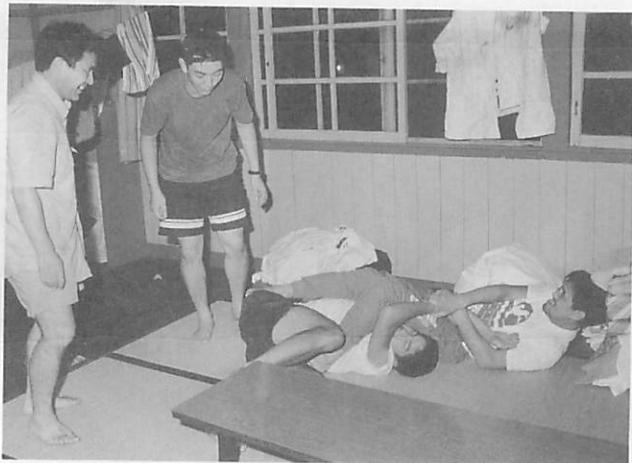
最近足が上らねえ！
(昭和63年度夏合宿にて)



平成4年夏合宿（会津田島町にて） 新幹部



平成5年度夏合宿（会津田島町にて）



“神田っち”の抑え込み
(平成5年度、夏合宿、会津田島町にて)

歴代幹部表

■ 小山高専空手道部

期 間	主将
S 4 8. 4 ~ 4 8. 9	松本
4 8. 1 0 ~ 4 9. 8	森田
4 9. 9 ~ 5 0. 8	羽部
5 0. 9 ~ 5 1. 8	羽部
5 1. 9 ~ 5 2. 8	笹沼
5 2. 9 ~ 5 3. 8	笹沼
5 3. 9 ~ 5 4. 8	小暮
5 4. 9 ~ 5 5. 8	小磯(覚)
5 5. 9 ~ 5 6. 8	前田
5 6. 9 ~ 5 7. 8	小林
5 7. 9 ~ 5 8. 8	大堀
5 8. 9 ~ 5 9. 8	島崎
5 9. 9 ~ 6 0. 8	鈴木
6 0. 9 ~ 6 1. 8	松葉
6 1. 9 ~ 6 2. 8	小磯(隆)
6 2. 9 ~ 6 3. 8	桧森
6 3. 9 ~ H 1. 8	小杉
H 1. 9 ~ 2. 8	中村
2. 9 ~ 3. 8	高正
3. 9 ~ 4. 8	森平

■ 陵 空 塾

期 間	会長	事務局
S 5 0. 4 ~ 5 1. 3	森田	—
5 1. 4 ~ 5 2. 3	森田	大橋
5 2. 4 ~ 5 3. 3	森田	大橋
5 3. 4 ~ 5 4. 3	森田	羽部
5 4. 4 ~ 5 5. 3	和久井	笹沼
5 5. 4 ~ 5 6. 3	和久井	笹沼
5 6. 4 ~ 5 7. 3	笹沼	小磯(覚)
5 7. 4 ~ 5 8. 3	笹沼	前田
5 8. 4 ~ 5 9. 3	笹沼	川田(正)
5 9. 4 ~ 6 0. 3	笹沼	川田(正)
6 0. 4 ~ 6 1. 3	三浦	川田(正)
6 1. 4 ~ 6 2. 3	三浦	川田(正)
6 2. 4 ~ 現在	小磯(覚)	川田(正)

陵空塾・部員住所録

■ 陵空塾（O B会）会員名簿

氏名	〒	住所	TEL
<名誉会員>			
岩田 純明	〒307	結城市上山川5862-5	0296-35-4387
石神 武男	〒349-11	北葛飾郡栗橋町大字栗橋2002-9イトーピア11-12	0480-52-5480
<一期>			
森田 一	〒323	下都賀郡岩舟町静226	0282-55-2396
松本 健司	〒329-43	今市市今市1430-4	
半田 耕治	〒321-12	南埼玉郡白岡町大字爪田ヶ谷4-1	0480-92-2730
大橋 好光	〒113	文京区白山1-33-8-1103	03-3823-4343
栗原比左雄	〒349-02	秋田市外旭川字田中3-3	0188-64-3218
鳩山 和巳	〒328	栃木市大町11-22	0282-22-1189
早乙女常夫	〒328	栃木市城内町2-47-25	0282-22-3729
星野 光夫	〒271	松戸市和名ヶ谷849-17	0473-92-6382
松永 利夫	〒321	宇都宮市越戸町218-6	0286-61-8043
鈴木 秀治	〒320	宇都宮市砥上町1628	0286-48-2688
<二期>			
羽部 義孝	〒306-02	猿島郡総和町水海110	0280-92-6652
町田 茂	〒346	久喜市北1-12-27県職員住宅202	0480-21-9202
和久井 勉	〒308-01	真壁郡関城町稻荷31	0296-37-2722
<三期>			
笹沼 充夫	〒323	小山市大字土塔264第三独身寮	0285-27-0974
上岡 勝美	〒355	東松山市神明町2-17-21ヴィラ利根川G号棟	0493-22-7481
阿久津喜三夫	〒321-23	今市市森友1520-88	0288-21-4865
関塚 大司	〒346	久喜市樋の口570	0480-22-1450
里中 豊子	〒321-01	宇都宮市東原町22-1市営住宅3-31	0286-58-2571
<四期>			
小暮 和広	〒329-43	下都賀郡岩舟町下津原359-2	0282-55-5709
三浦 福二	〒326	足利市葉鹿町273-1	0284-64-0692
小林 範久	〒432	浜松市海老塚2-25-508	053-452-9414
<五期>			
燕田 隆男	〒355	東松山市山崎町5-9	0493-24-8862
小林 孝也	〒325	黒磯市上厚崎野崎道607-41	0287-63-9507
宮田 康男	〒307	結城市富士見町10376-6	0296-32-9996
小磯 覚司	〒329-11	河内郡河内町大字下岡本4180	02867-3-2070
瀬端 正夫	〒252	綾瀬市小園1271-1-302	0467-79-0160
<六期>			
前田 祐二	〒145	大田区久我原627-14二菱金属寮	
小泉三智夫	〒271	松戸市栄町3-191-2メゾン・ド・ブルミエ103	0473-65-5276
高橋 幸英	〒271	松戸市松戸1057松戸寮522号	0473-61-1722
川田 正美	〒227	横浜市緑区梅が丘39-9 J T 第1アパート103	045-972-4338
<七期>			
小林 新一	〒233	横浜市港南区大久保3-40-1港南寮	045-847-7800
安曇 昇	〒306	古河市旭町1-4-13	0280-31-3639

〈八期〉

大堀 敏行	〒324	大田原市浅香1-2-6	
中山 尚之	〒206	多摩市永山1-17-11-303	
猪瀬かおる	〒132	江戸川区平井1-24-10ユーディー1-202	03-3637-1159
嶋崎 恵一	〒929-11	河北郡宇ノ気町七窪ヘ58-2 P F U 明和寮2319号室	

〈九期〉

川田五輪治	〒328	栃木市大塚町783	044-777-6220
石岡 誠	〒329-06	河内郡上三川町大字上三川1518-3	0285-56-6338

〈十期〉

鈴木 克幸	〒399-81	南安曇郡三郷村町温3810	0263-77-7523
井上 修一	〒323	小山市若木町1-17-19	0285-22-2240

〈十一期〉

塩澤 利典	〒324	大田原市薄葉2153-53	0287-29-2836
松葉 敏幸	〒238	横須賀市汐入町1-6-1メゾン・ド・トゥール708	0268-25-0035
酒澤 正則	〒194	町田市本町田2584-1公社住宅ホ13-512	0427-92-7567
中村 英二	〒241	浦安市東野1-4-30サンパレス東野108	
磯部登美夫	〒803	浜松市石原町462	
荻野多美子	〒370-23	富岡市七日市1048-3	0274-63-4896

〈十二期〉

渡辺 茂	〒324	大田原市本町1-1-20	0287-22-6020
小磯 隆一	〒320	宇都宮市上久町1231-86	0286-48-2033

〈十三期〉

桧森 毅延	〒308	下館市女方267-31	0296-28-4804
-------	------	-------------	--------------

〈十四期〉

小杉 博展	〒221	市川市南八幡4-5-11クレアーレ本八幡701	
小林 矢也	〒317	日立市中成沢町2-11-15瀬谷ハイツ3	0294-36-0062
丸田 篤	〒182	川崎市高津区梶ヶ谷3-5-1	0449-33-7128
水岸 正行	〒321	宇都宮市岩曾町1328-9	0286-61-7951
飯塚 香織	〒327	佐野市奈良渕町332-325	0283-24-7453
長谷川聰子	〒327	佐野市関川町840-6-303	0283-24-0815

〈十五期〉

中村 昭人	〒319-11	那珂郡東海村村松2814-5常陽産業清風寮	0292-83-2469
福田 国彦	〒321-01	宇都宮市針ヶ谷町421-13	0286-53-5550
山田 博	〒349-11	北葛飾郡栗橋町小右衛門1410-1	0280-52-2926

〈十六期〉

高正 賢雄	〒308	下館市玉戸1247-2	
大野 順義	〒142	品川区二葉1-3-37-101	0284-91-0491
橋本 宏之	〒329-42	足利市駒場町673	0282-23-7442
古性 淑子	〒328	栃木市平柳町1-43-10	

〈十七期〉

森平 宏	〒370	船橋市大穴南1-35-3 B-311	
矢島 健一	〒349-01	蓮田市川島781-34	048-769-3885
岩館 満雄	〒184	小金井市中町2-24-16 けやき寮2-403	

〈十八期〉

宮前 繁	〒329-04	下都賀郡国分寺町駅東5-9-15	0285-44-6533
中野 佳幸	〒328	栃木市本町1-8	0282-23-3511
加藤 泰一	〒326	足利市助戸東山町1736-4	0284-41-4710

■ 空手道部員名簿

氏 名	〒	住 所	TEL
<指導教官>			
奥山 優	〒323	小山市大字小山673-1	0285-28-1017
中山 光幸	〒329-11	河内郡河内町大字中岡本一六原4032	0286-73-5411
佐藤 太一	〒227	横浜市緑区桜台1-41	045-973-4000
滝沢 雄三	〒323	小山市大字神鳥谷1417-29	0285-27-5006
<5年>			
高野 智秀	〒329-02	小山市大字千駄塚440-10	0285-45-5866
横山 恵一	〒348	羽生市東6-20-10ホワイトシーザーII101	0485-63-5064
岡部久美子	〒328	栃木市城内町2-26-2	0282-24-1288
飯島 直美	〒308	下館市玉戸1304-1	0296-25-1337
<4年>			
神田 庄吾	〒306	猿島郡総和町小堤1913-292	0280-98-1096
武井 清明	〒308	下館市大字折本384	0296-24-6115
<3年>			
山本 健作	〒321-01	宇都宮市針ヶ谷町447-33	0286-55-2616
沢田 利幸	〒320	宇都宮市鶴田町3240-9	0286-36-9435
中野 耕多	〒329-11	河内郡河内町大字中岡本2806-28	0286-73-1757
宮前久美代	〒329-04	下都賀郡国分寺町駅東5-9-15	0285-44-6533
増田 和代	〒270-02	東葛飾郡関宿町柏寺633-43	0471-96-2900
<2年>			
高橋 伴嘉	〒329-44	下都賀郡大平町大字西水城1860-2	0282-43-1237
石井 大介	〒321-34	芳賀郡市貝町大字上根647-2	0285-68-2202
<1年>			
荻原 浩一	〒321-43	真岡市小林954	0285-82-4531
小倉 良昭	〒321-34	市貝市大字上根1217-2	0285-68-2246
加藤 猛仁	〒320	宇都宮市西原2-2-9	0286-33-7542
古橋 勝仁	〒308	下館市大字成田826	0296-24-4638
猪瀬 雅世	〒308	下館市大字伊讚美1965-1	0296-28-3427
桑久保樹里	〒321	宇都宮市平松本町336-2メゾンドベル7-502	0286-39-7318

編集後記

昭和48年に空手道愛好会として発足以来、早20年を迎えここに20周年を記念し、小山高専空手道部20年誌を発刊することが出来ましたこと大変喜ばしく思っております。

現在空手道部が毎日練習に励んでいられるのも、O.B.の方々が日々と築き上げてきた伝統のおかげと思っております。これからもこの良き伝統を受け継ぎ、今後の充実と発展のため心を新にし一層の精進を尽くしてまいる所存です。

また20周年にあたり、創設者である岩田先生、指導教官の先生、日本空手協会栃木県本部の先生方に改めて感謝申し上げますとともに今後ともご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

最後に、多忙の中時間をさき原稿を執筆してくださりました先生各位、O.B.諸兄に対し、深く感謝の意を表します。

小山工業高等専門学校 空手道部20年誌

製作 : 小山工業高等専門学校 空手道部
　　陵空塾（小山工業高等専門学校 空手道部O.B.会）
監修 : 滝沢雄三
編集 : 小山工業高等専門学校空手道部20年誌編集委員会
　　(委員長) 滝沢 雄三
　　(幹事) 小磯 覚司 高野 智秀
　　(委員) 町田 茂 笹沼 充夫 関塙 大司
　　　　川田 正美 横山 恵一 岡部久美子
　　　　神田 庄吾 武井 清明

発行 : 1994年8月

※ 本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を越え、無断で
複写、複製、転載することを禁じることはできません。